

# NO NO

**DOKURO**



**STORY AND ART  
BY SMILE**

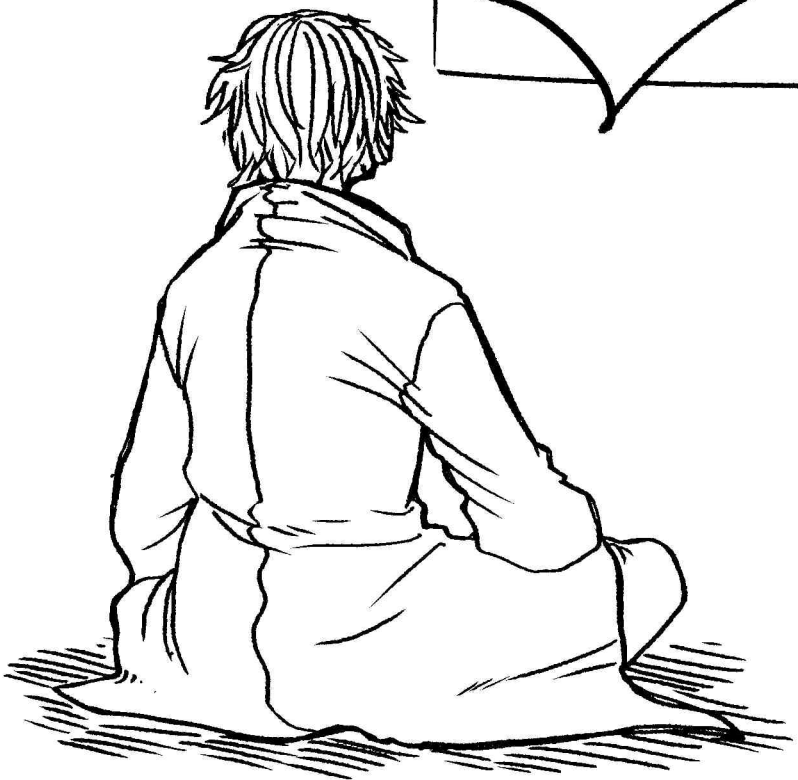
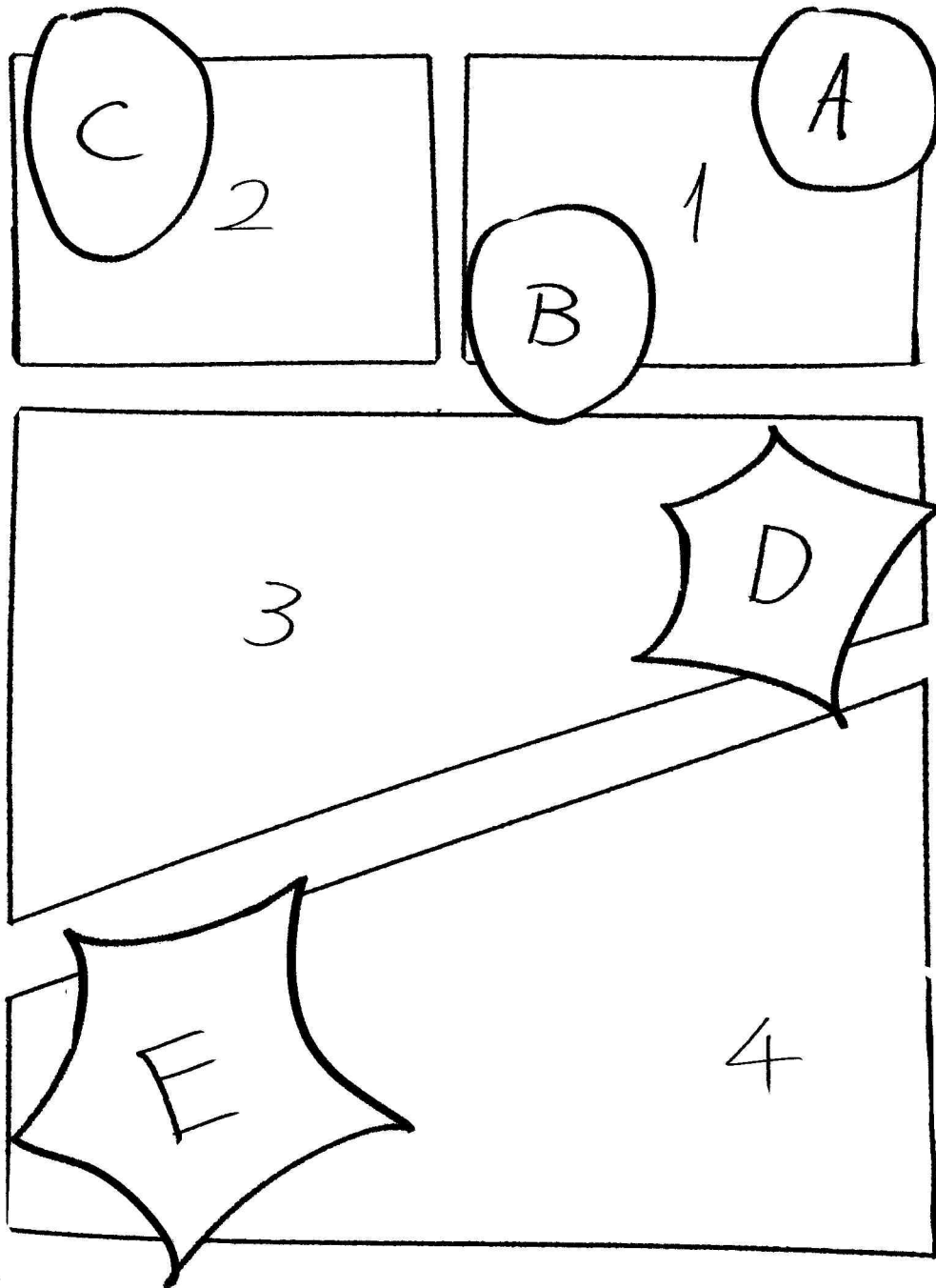
どくろ  
骷髏

do ku ro  
DOKURO or ドクロ

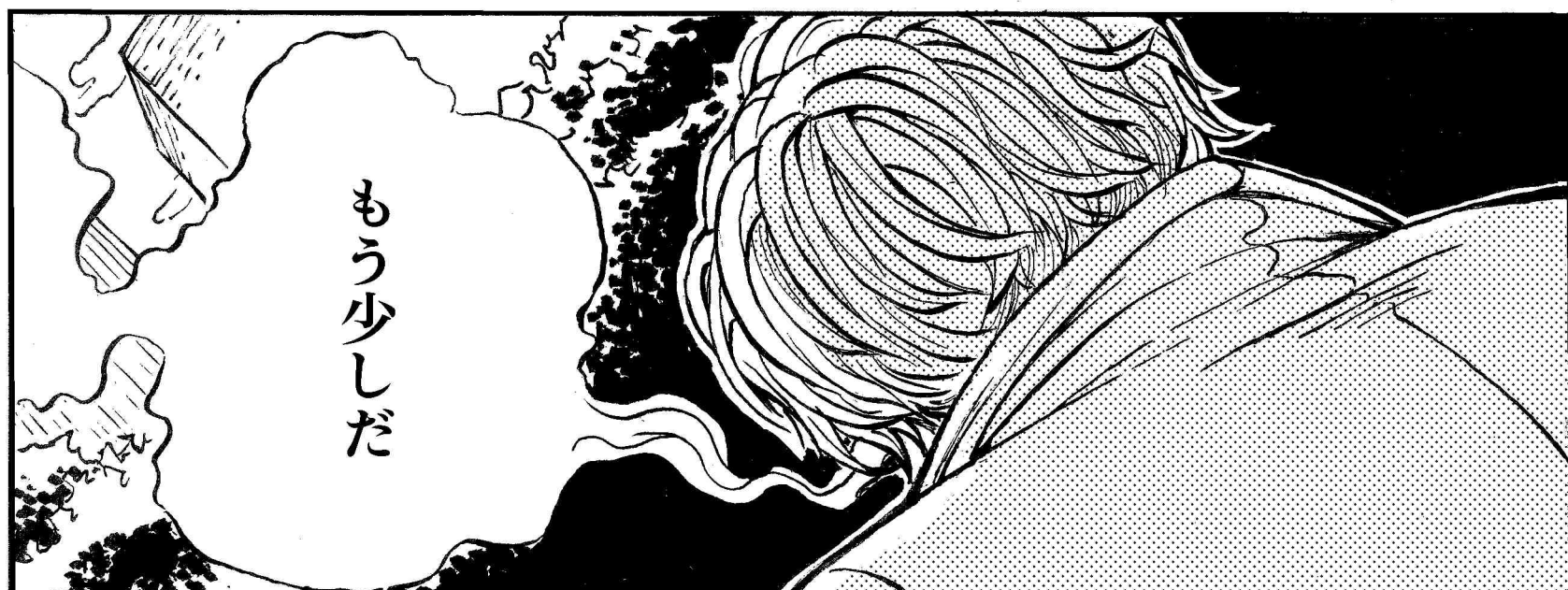
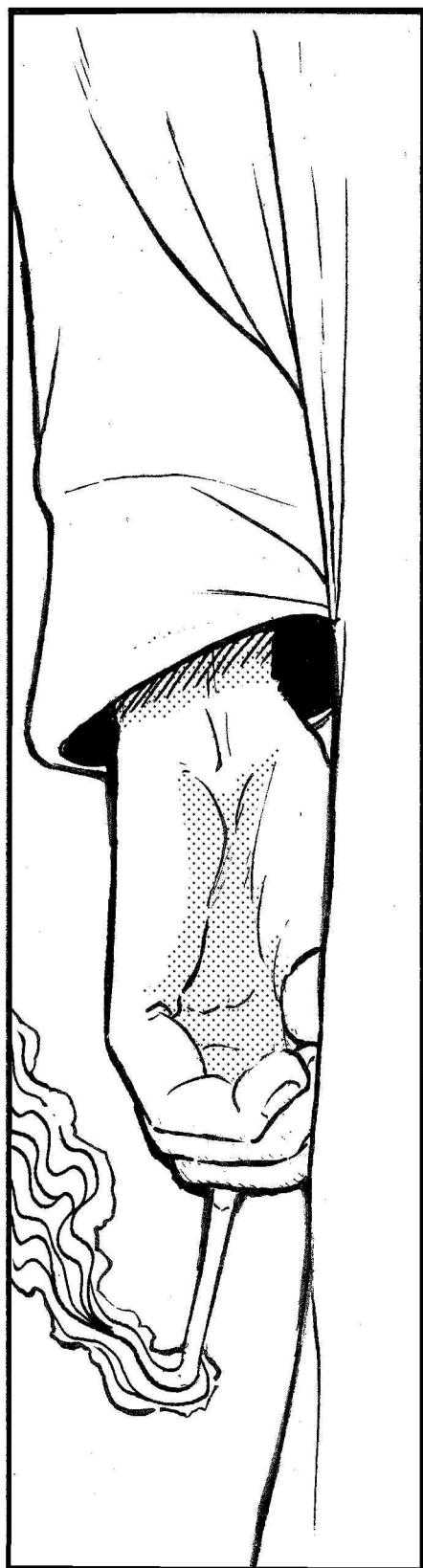
SKULL

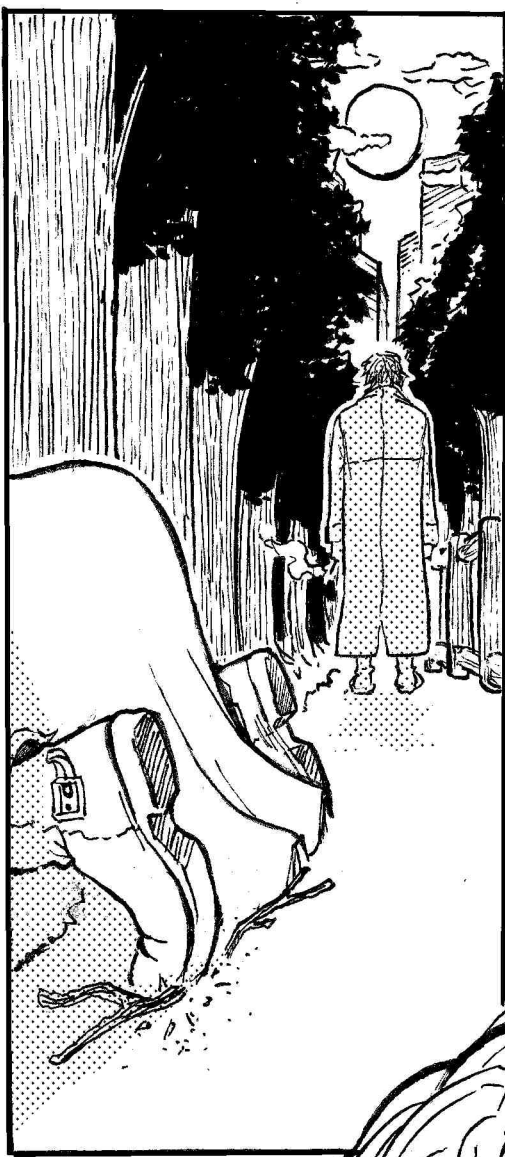
(esp. weatherbeaten,  
used as a symbol of death)  
death's head; cranium

THIS COMIC IS READ  
FROM RIGHT TO LEFT.



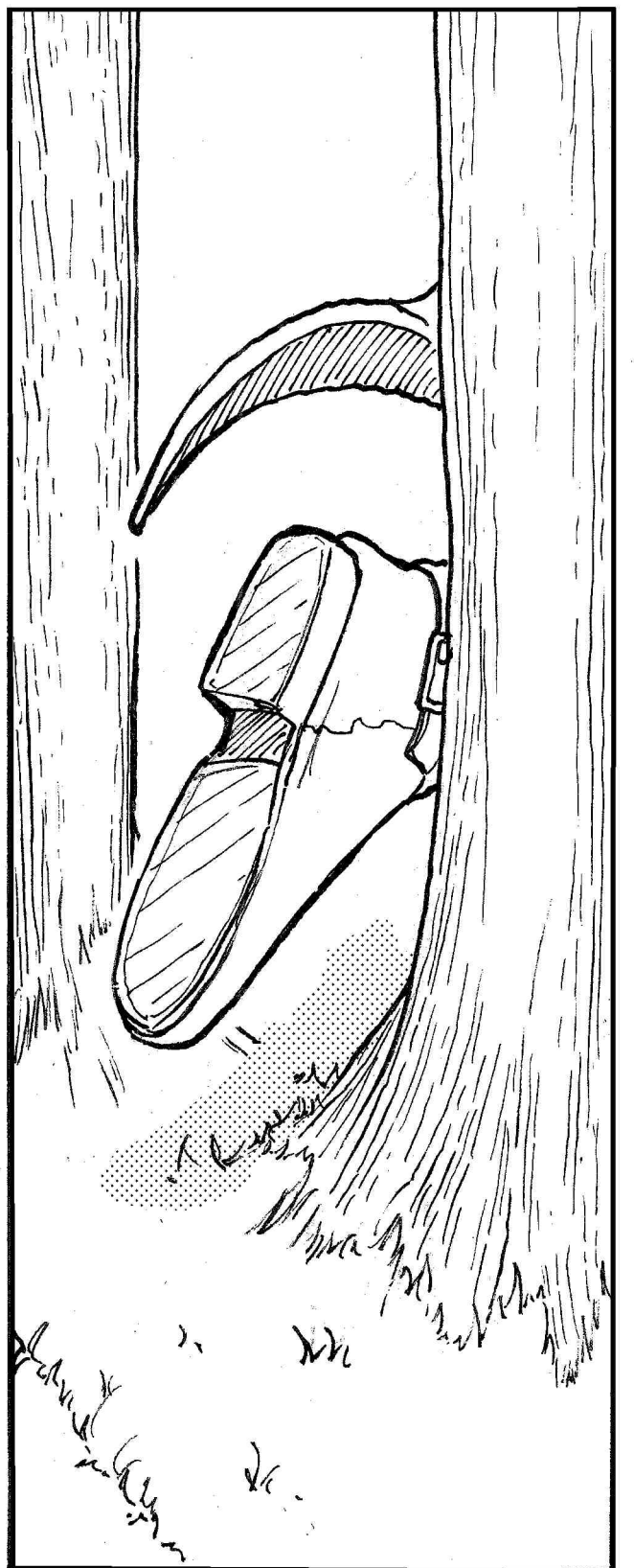
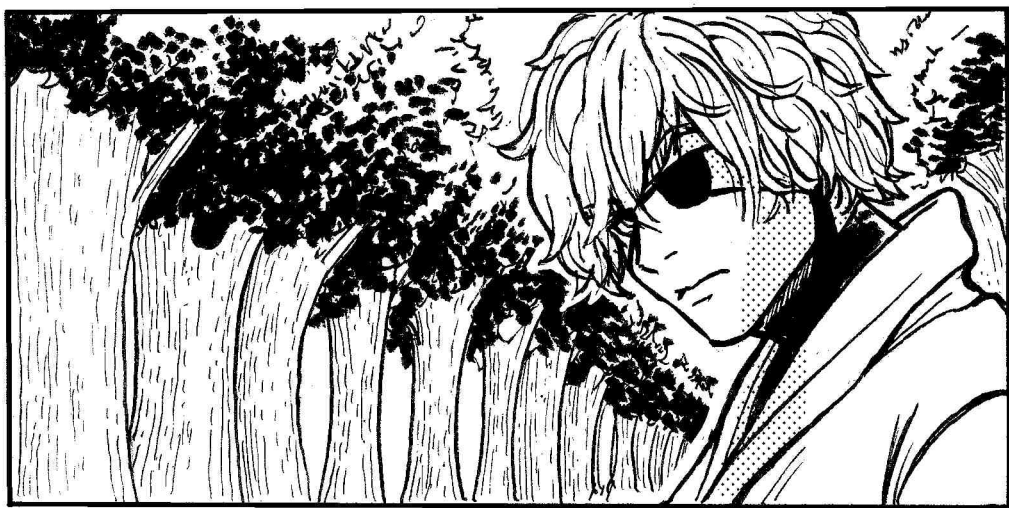






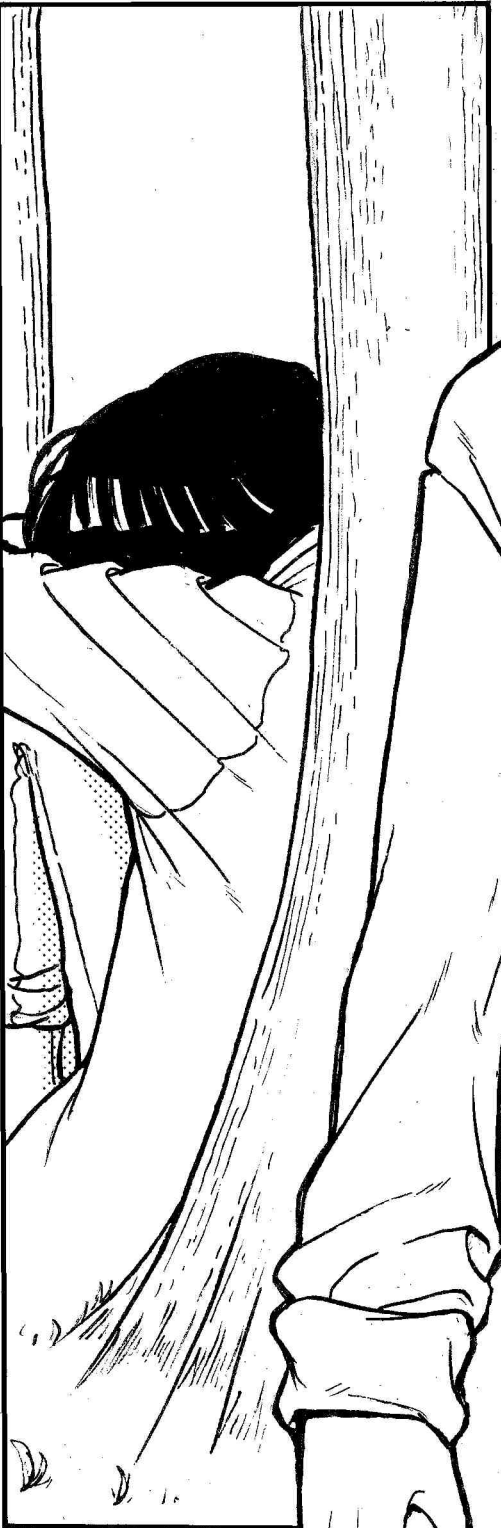
何を  
やって  
いるんだ？







ほっといてくれ

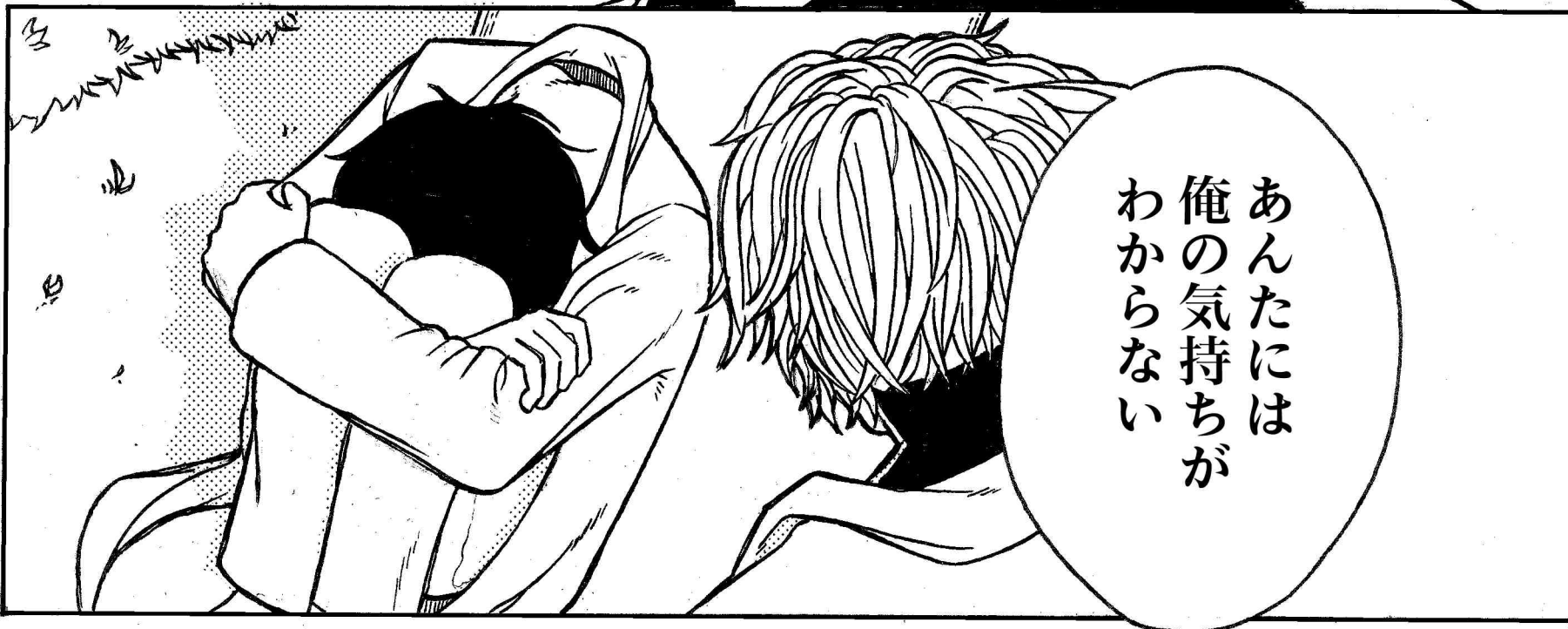


聞こえた  
だろうか？

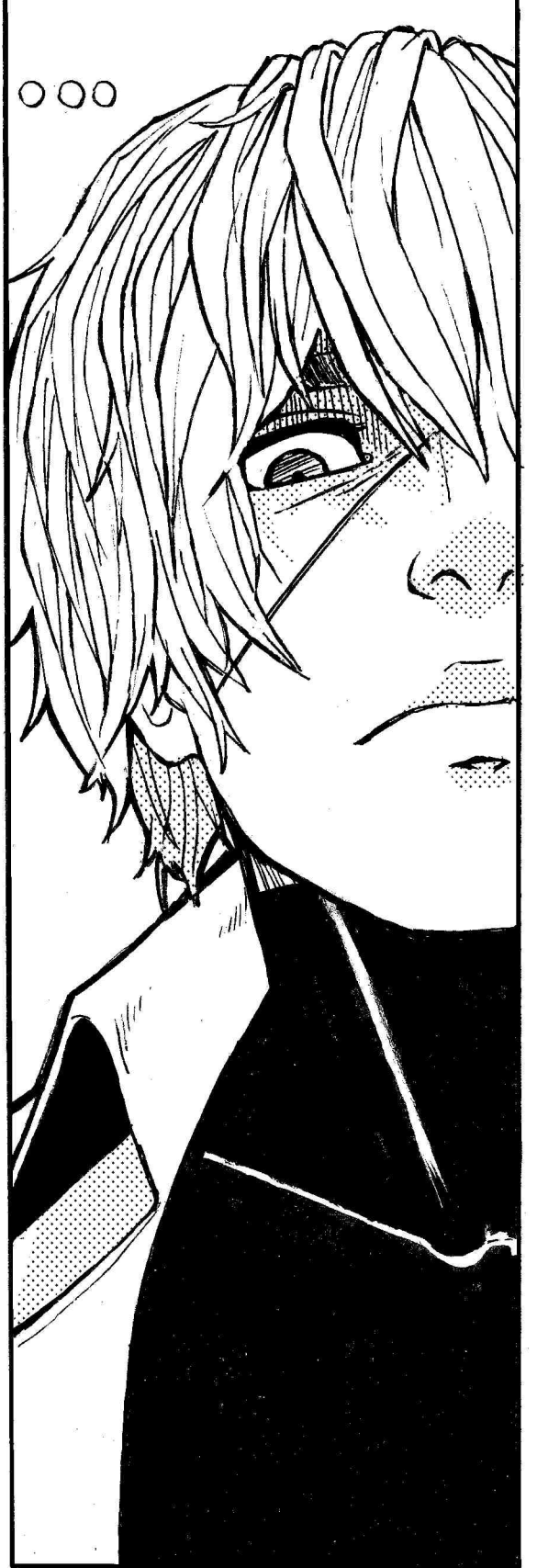
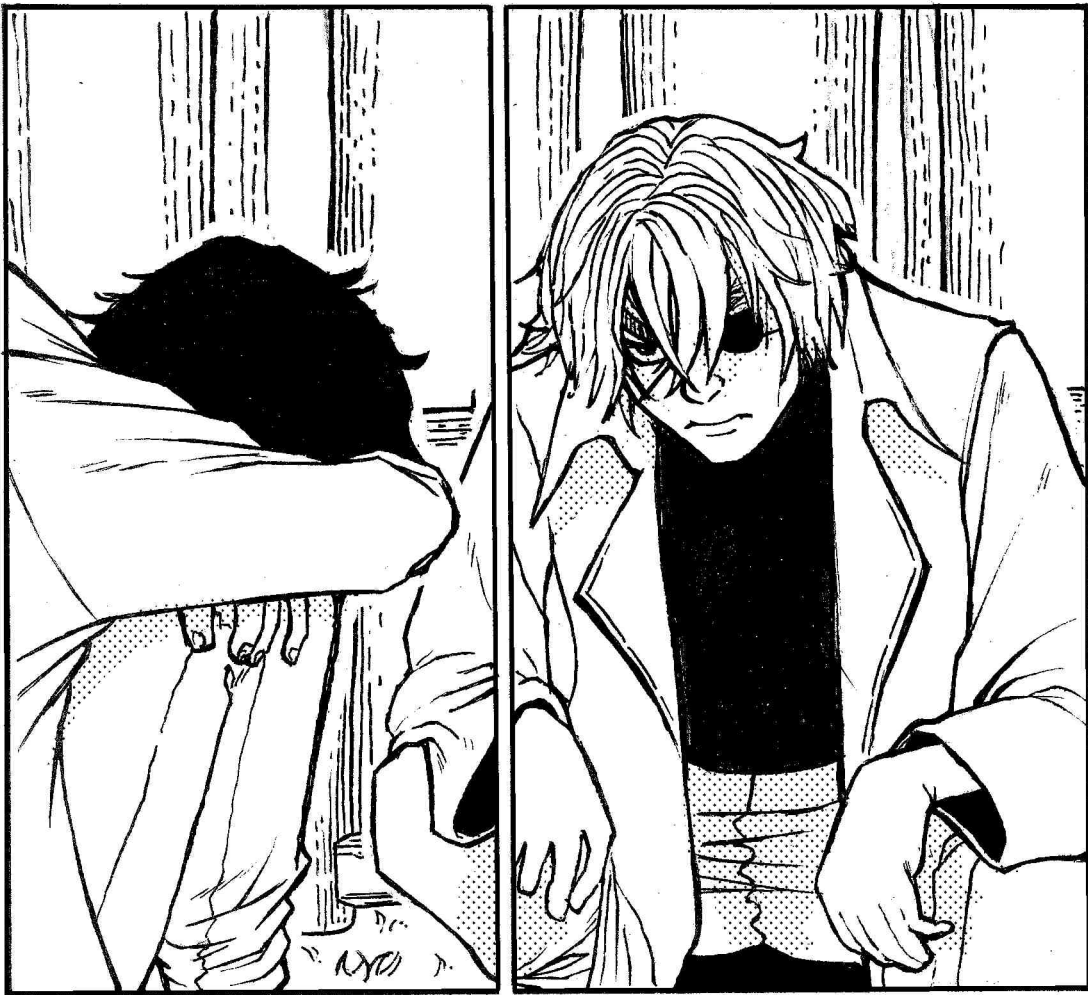




なあ、気持ちちは  
わかるけど、  
マジで行こうぜ



あんたには  
俺の気持ちちが  
わからない



ふざけるな。  
時間が  
ないんだ

さっさと  
立て！



しっかりしろ！

仕事中なんだよ、  
バカやろう！



他で  
ふざけたら  
どうだ



それを  
見るには  
片目で十分だ！



だから何だ！？  
できないよ！  
怖すぎる！

ギャーギャー  
言っていないで、  
さっさと行けよ。  
行くぞ！

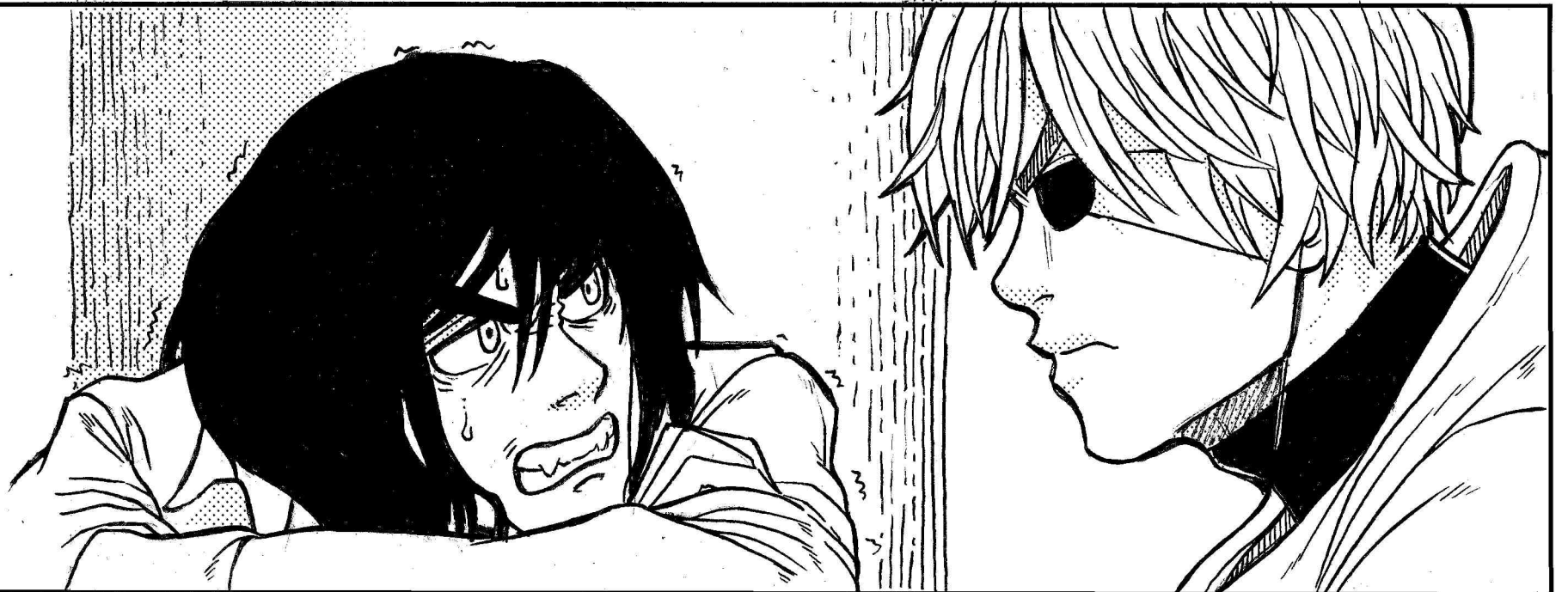


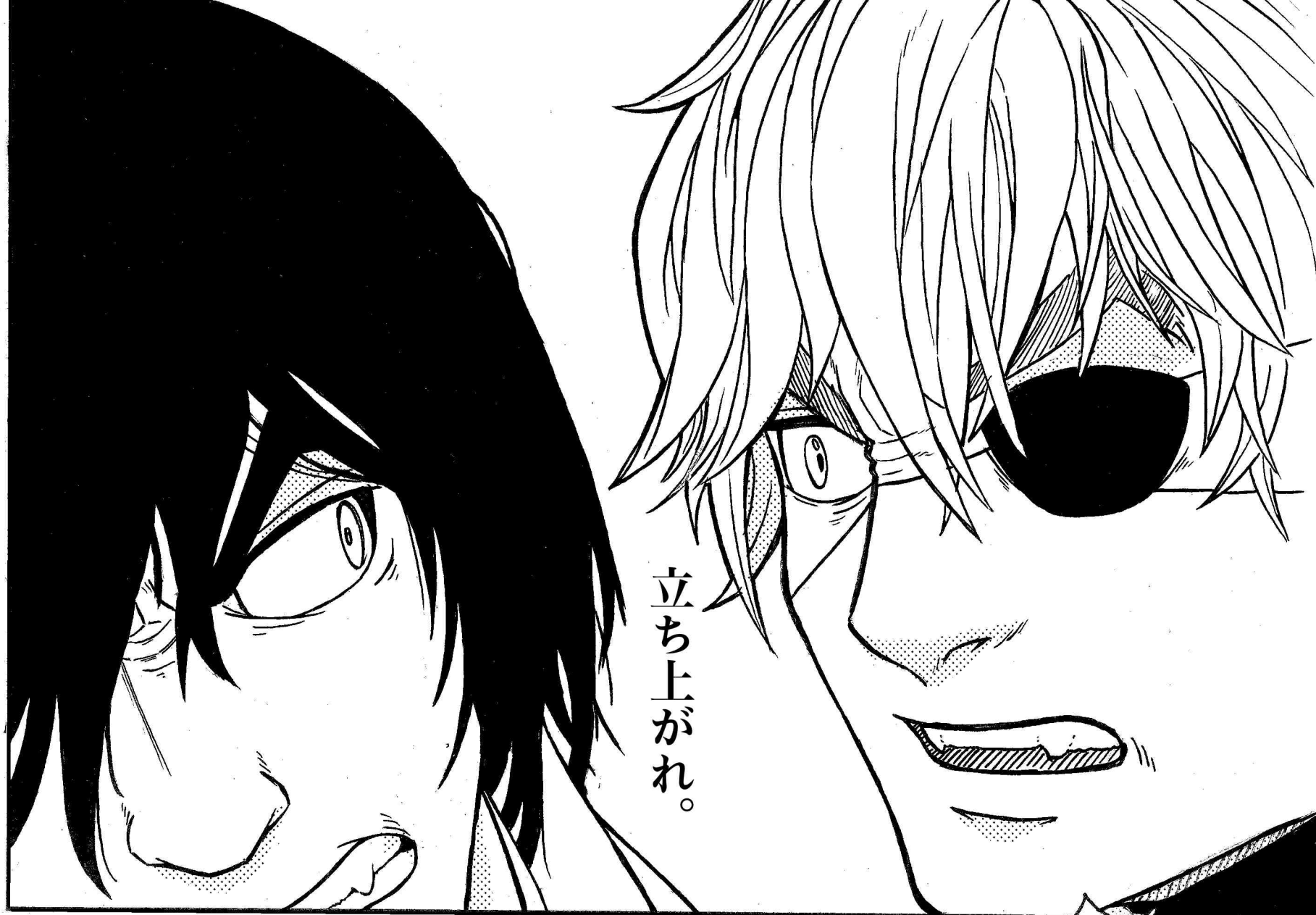
口を慎んだほうが  
いいぞ、小僧。

はっ老いと  
言ったはずだし、  
俺は行かない！  
2度と言わない！



耳が聞こえなくて  
目が見えない？





立ち上がれ。



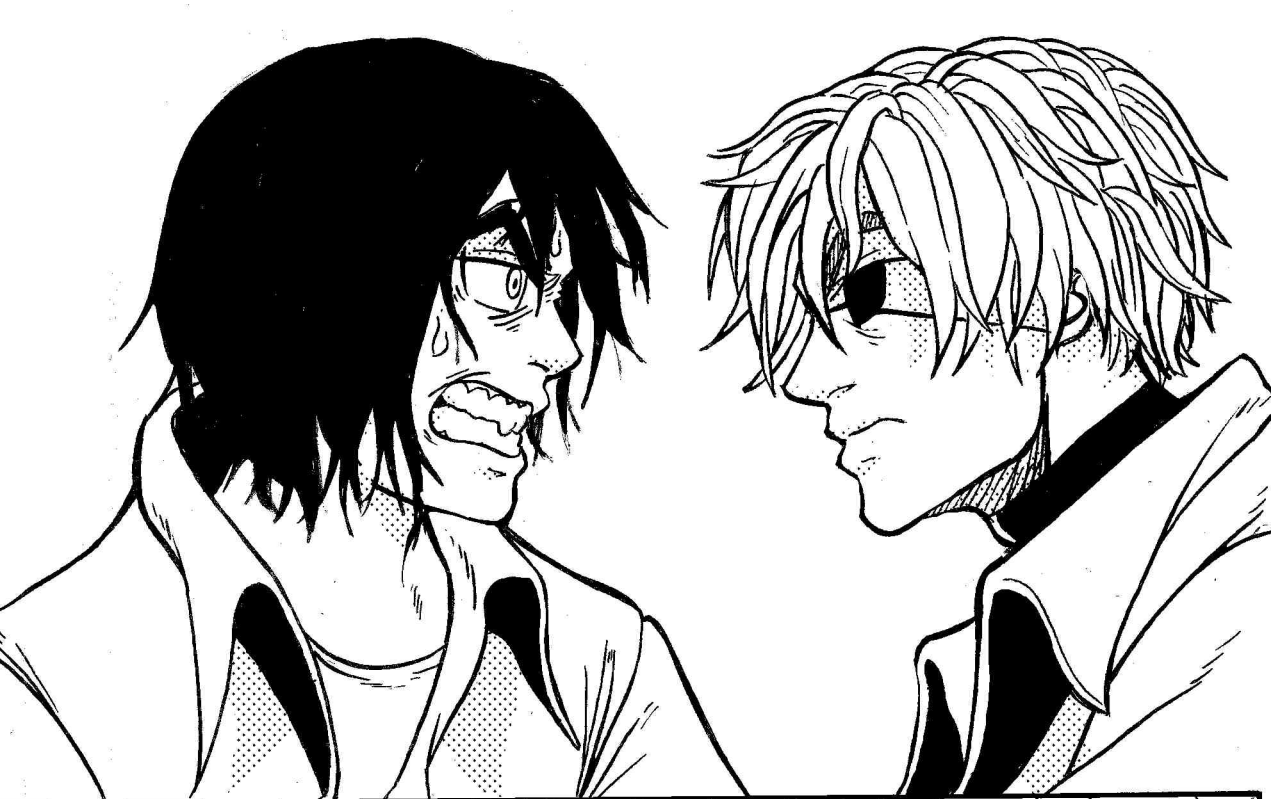
いや！ダメだ！  
絶対にダメだ！



あんな  
不気味な  
怪物と  
戦うなんて  
とんでも  
ない！

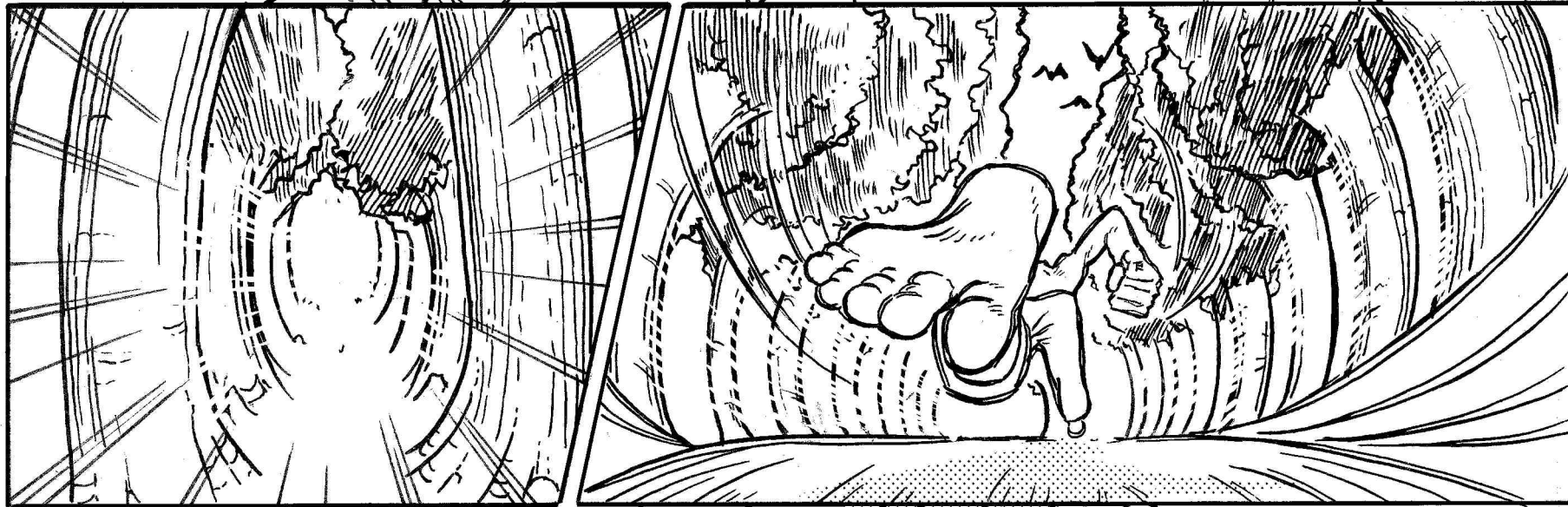
この  
怪物どもには  
恐れおののく  
ばかりだ！

それは  
あり得ない！





何だい？





俺はいた〜

止まれ!



え!?



行こうぜ

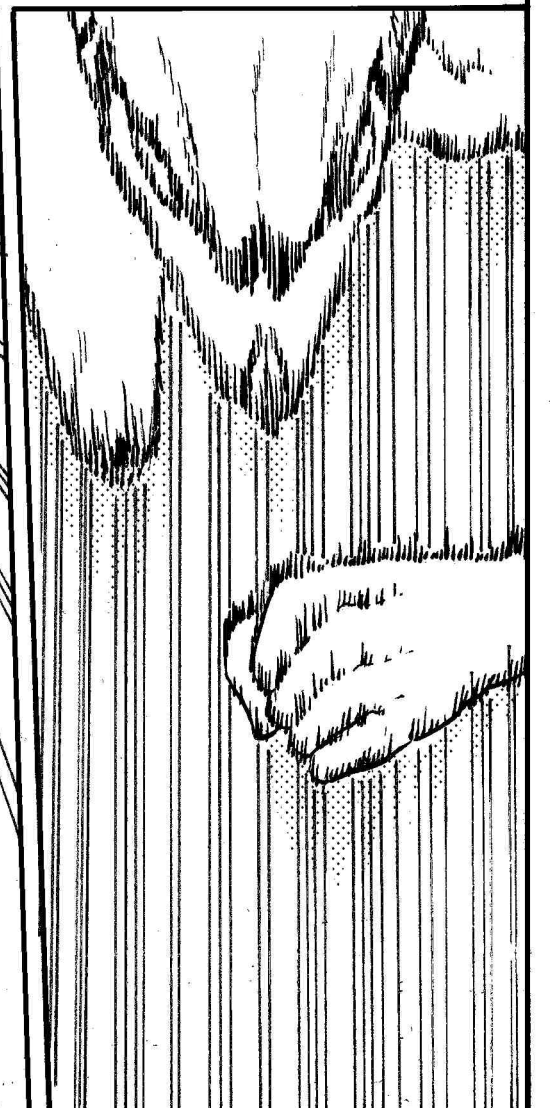
?!



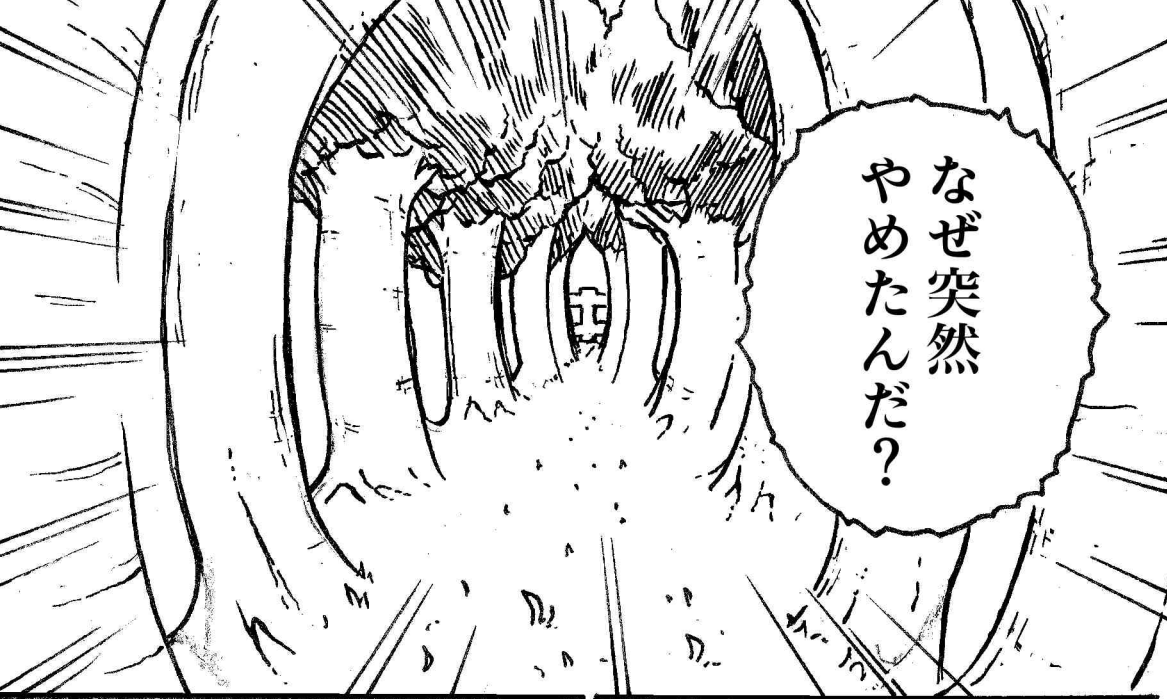
おい、  
待てよ!  
まだ話は  
終わってない



待ってくれと  
言ったんだ!  
なぜそんなに  
速く走るんだ?







なぜ突然  
やめたんだ？



隠れよう  
なんて考えるな



獣が目の  
前にいるんだ

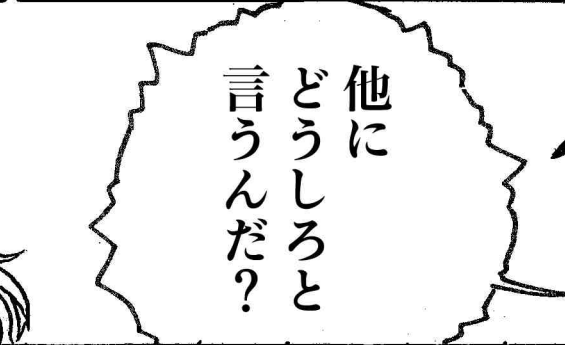
ゼヒッ

ゼヒッ

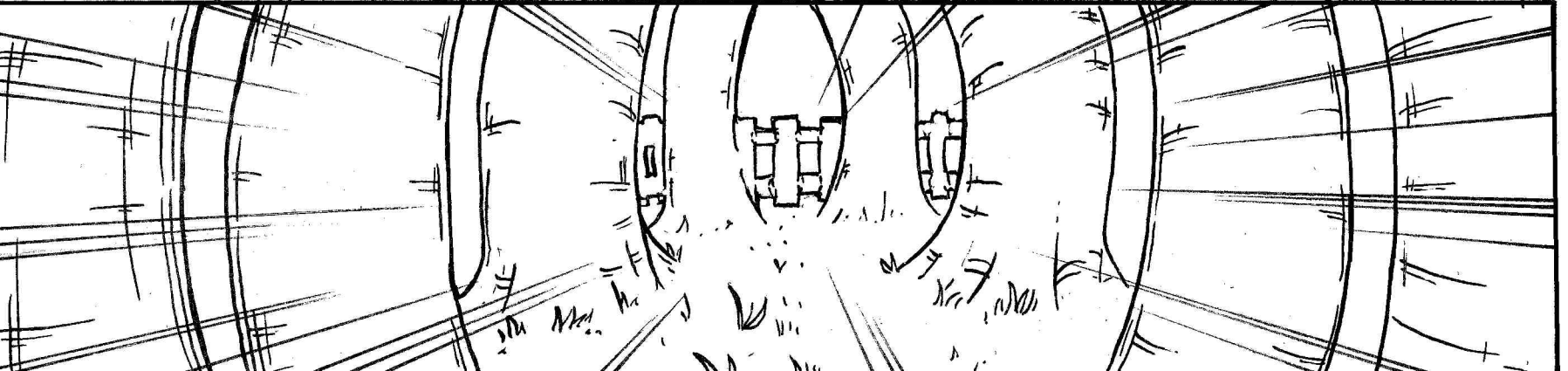
ゼヒッ



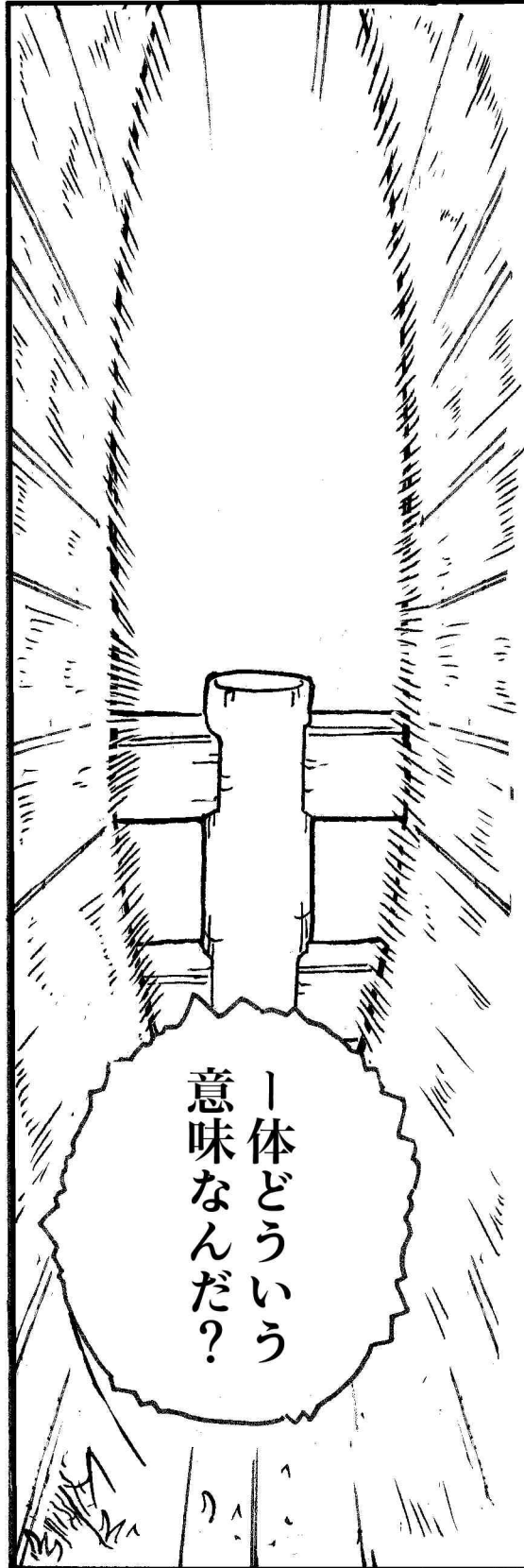
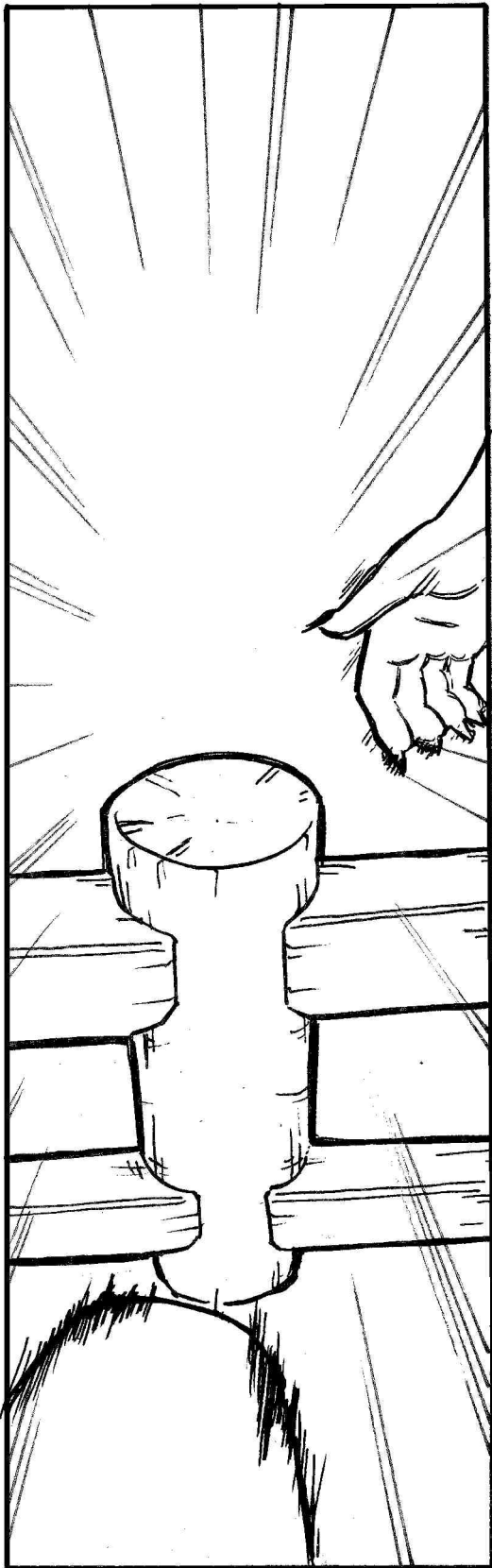
集中しろ……

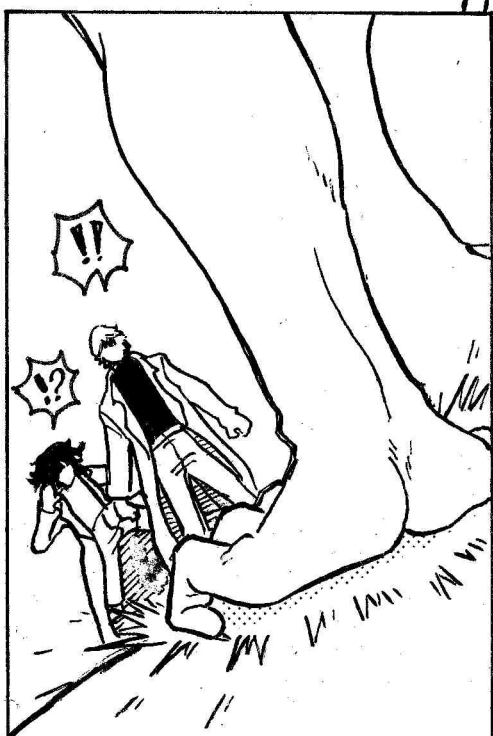


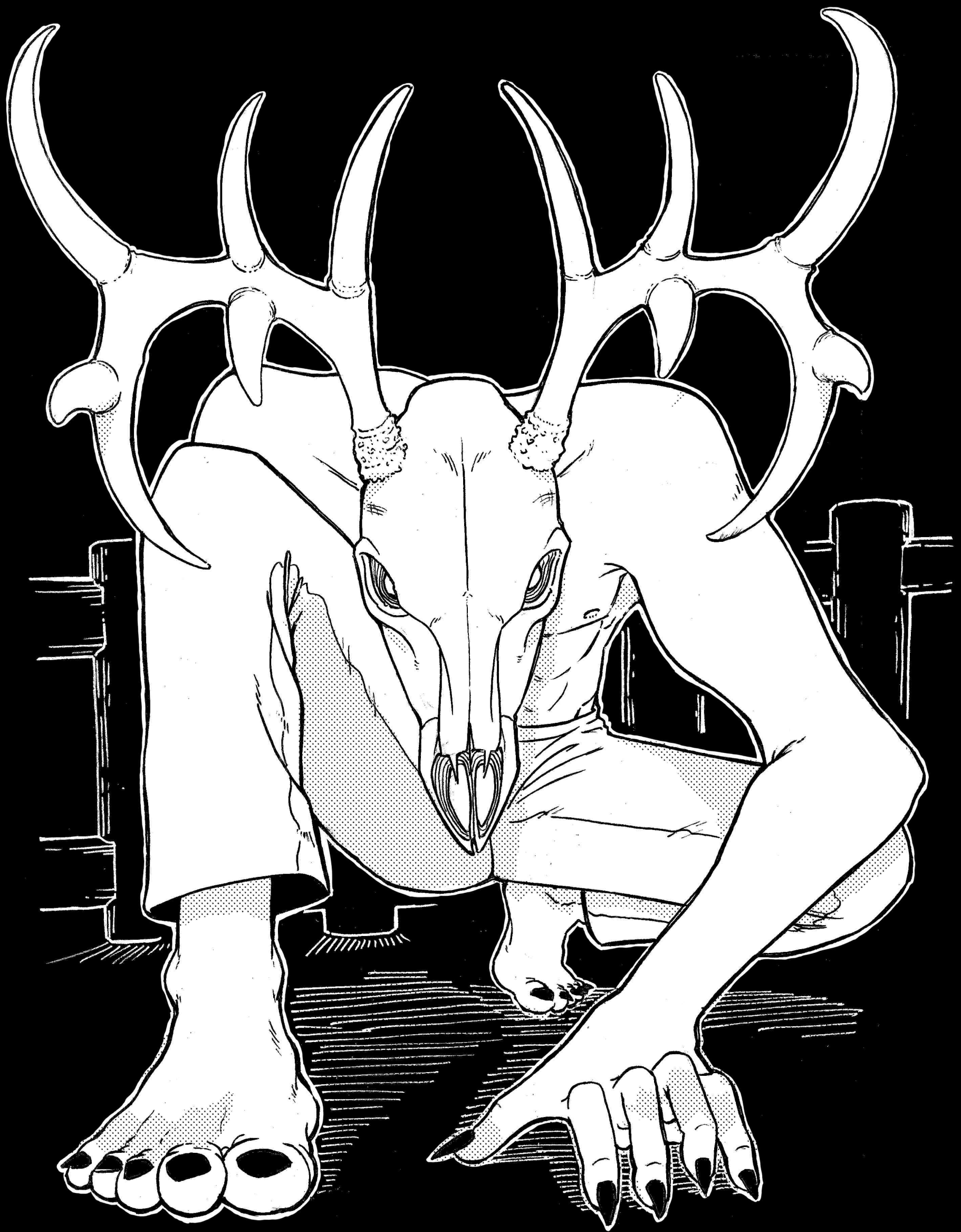
他に  
どうしろと  
言うんだ？

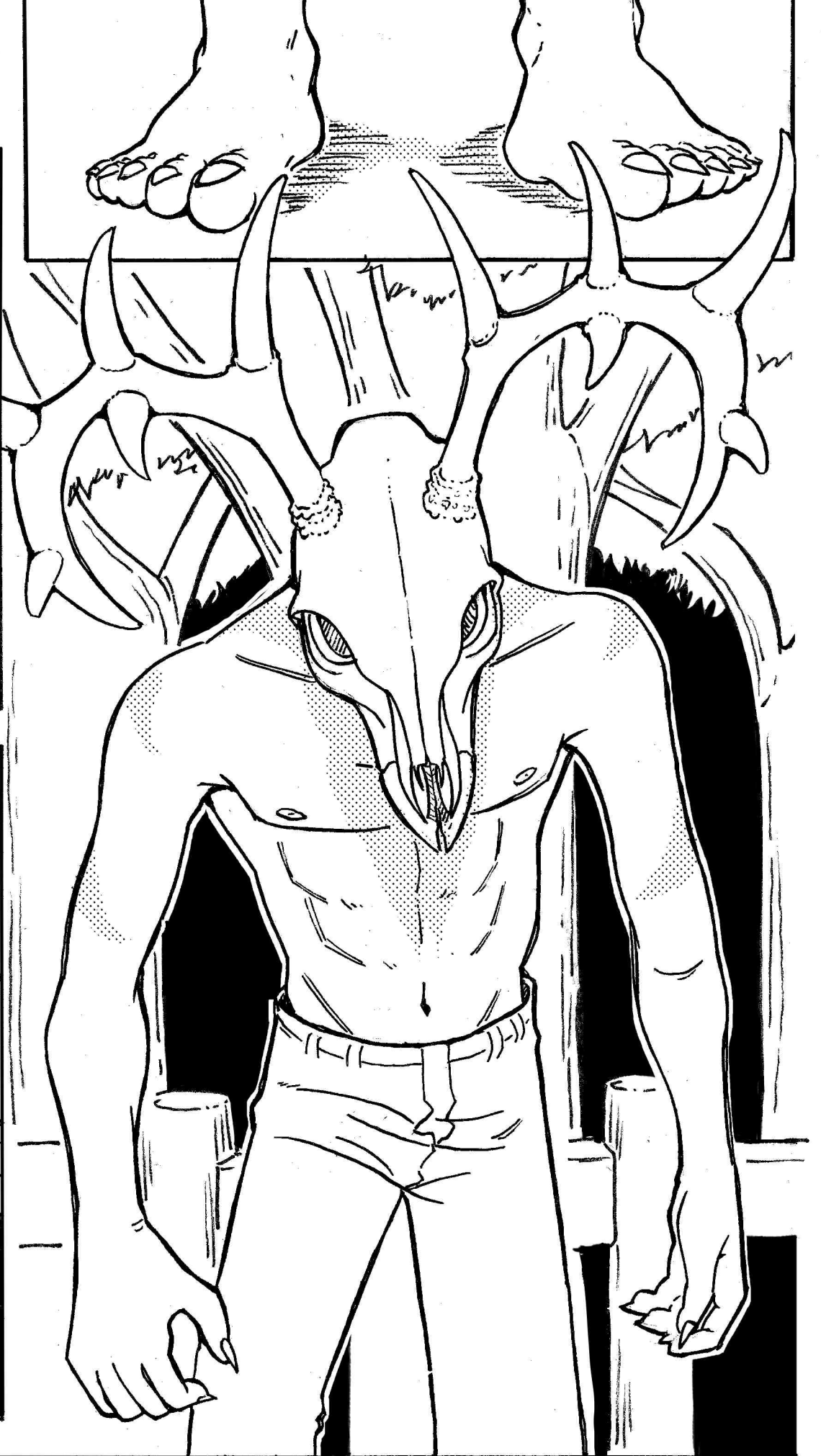


集中してほしい。。。。





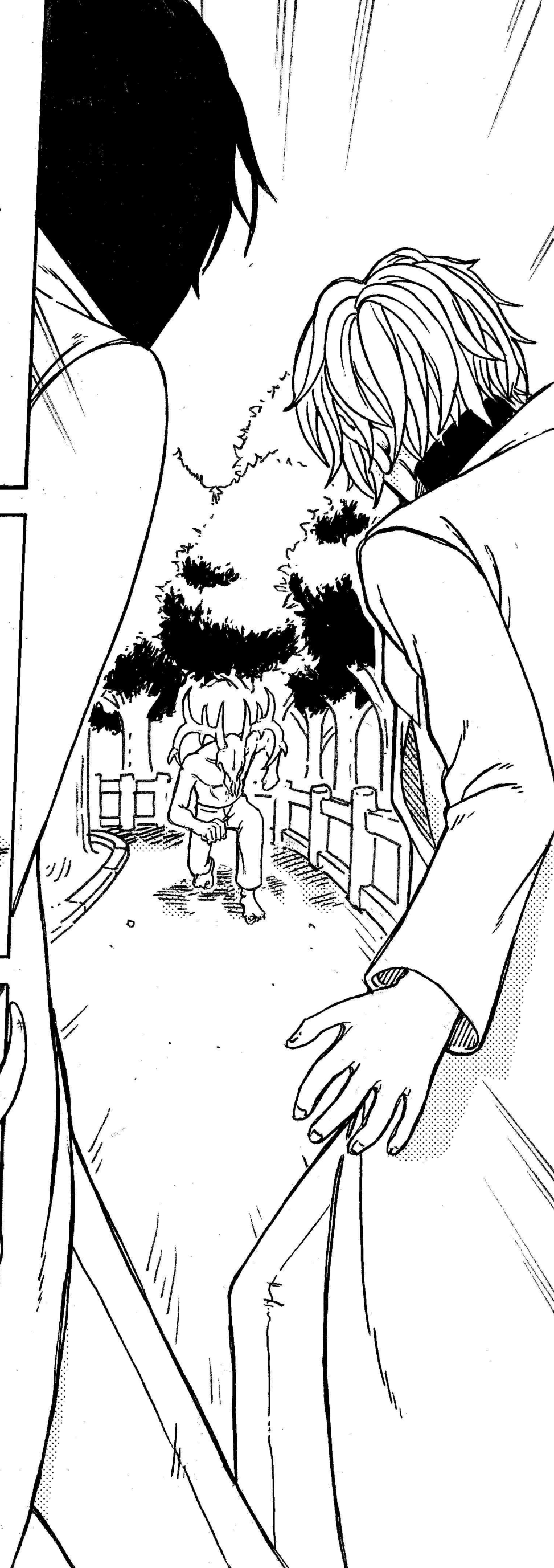
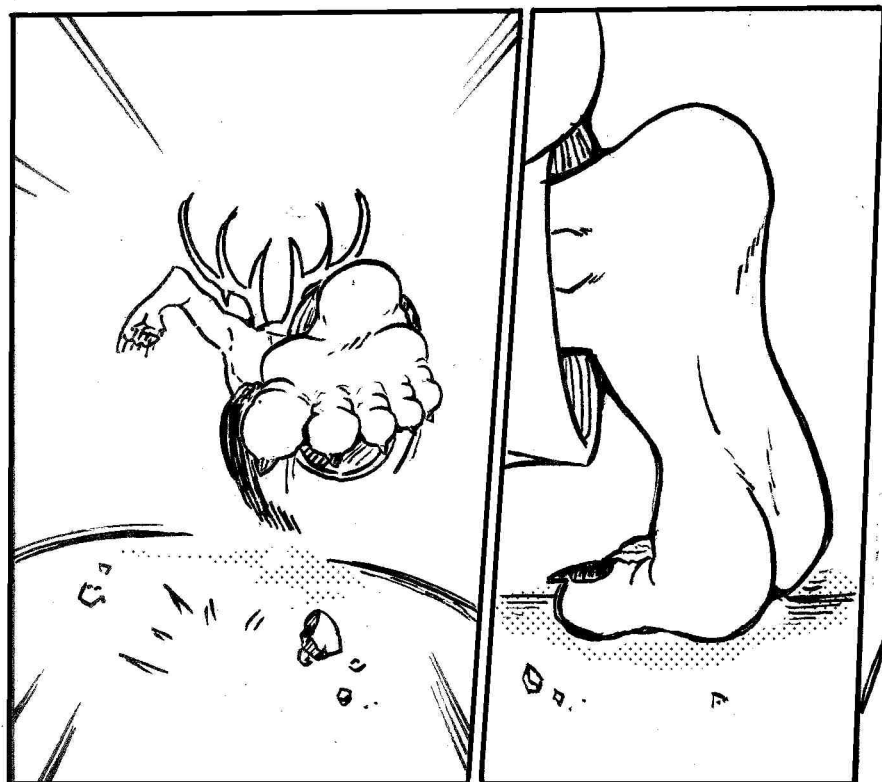




そうだ、  
君はこの獣と  
戦っている。

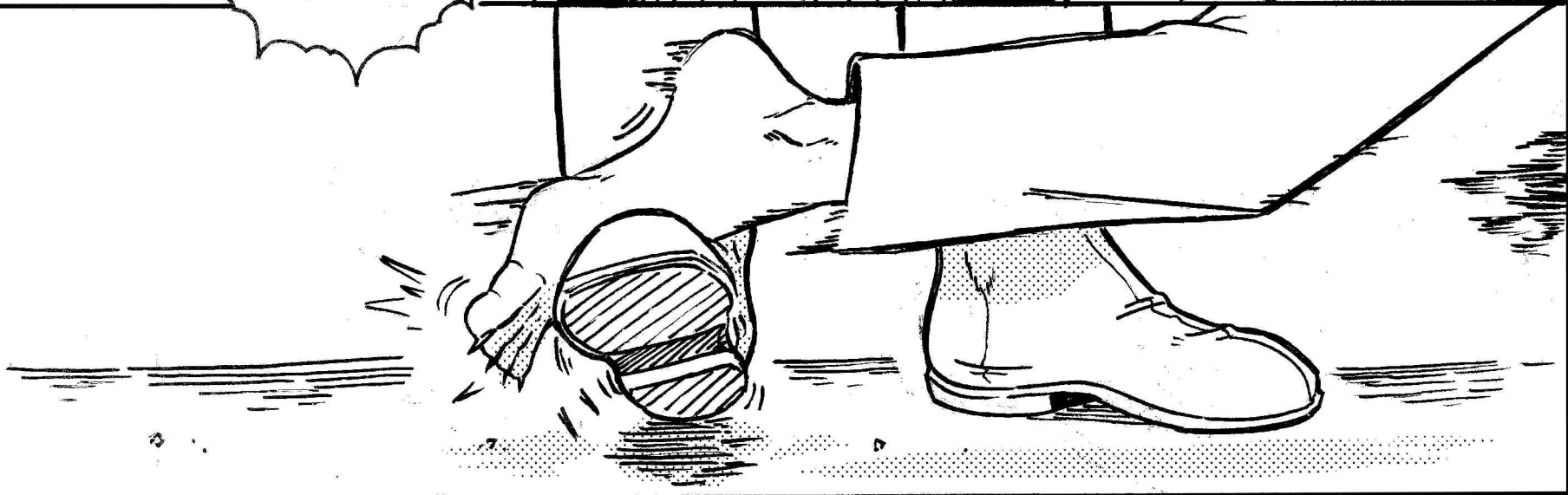


そして一人で  
戦っているぞ！

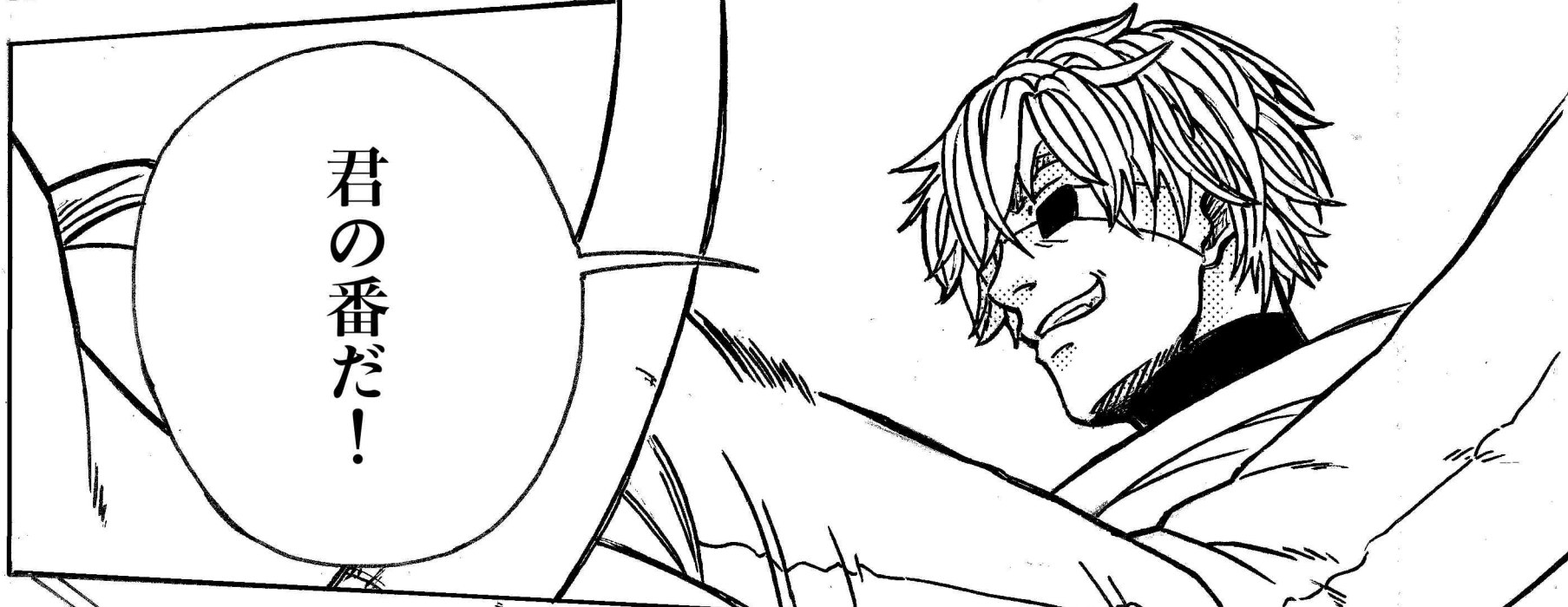




クソ面白くない!

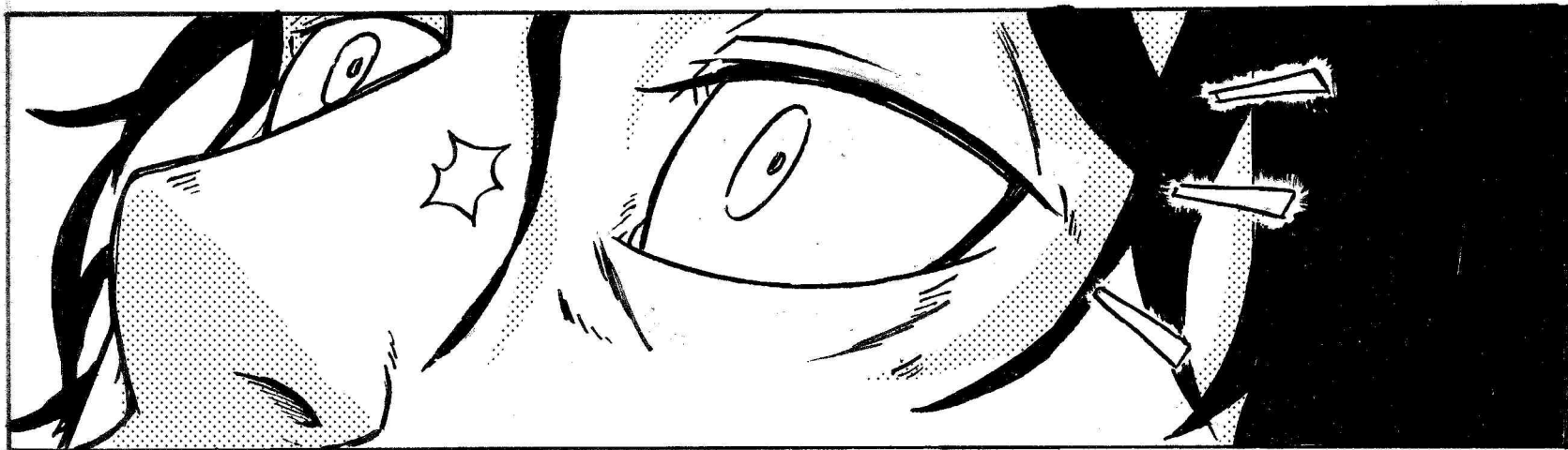


ちよっとした  
プレゼントだ

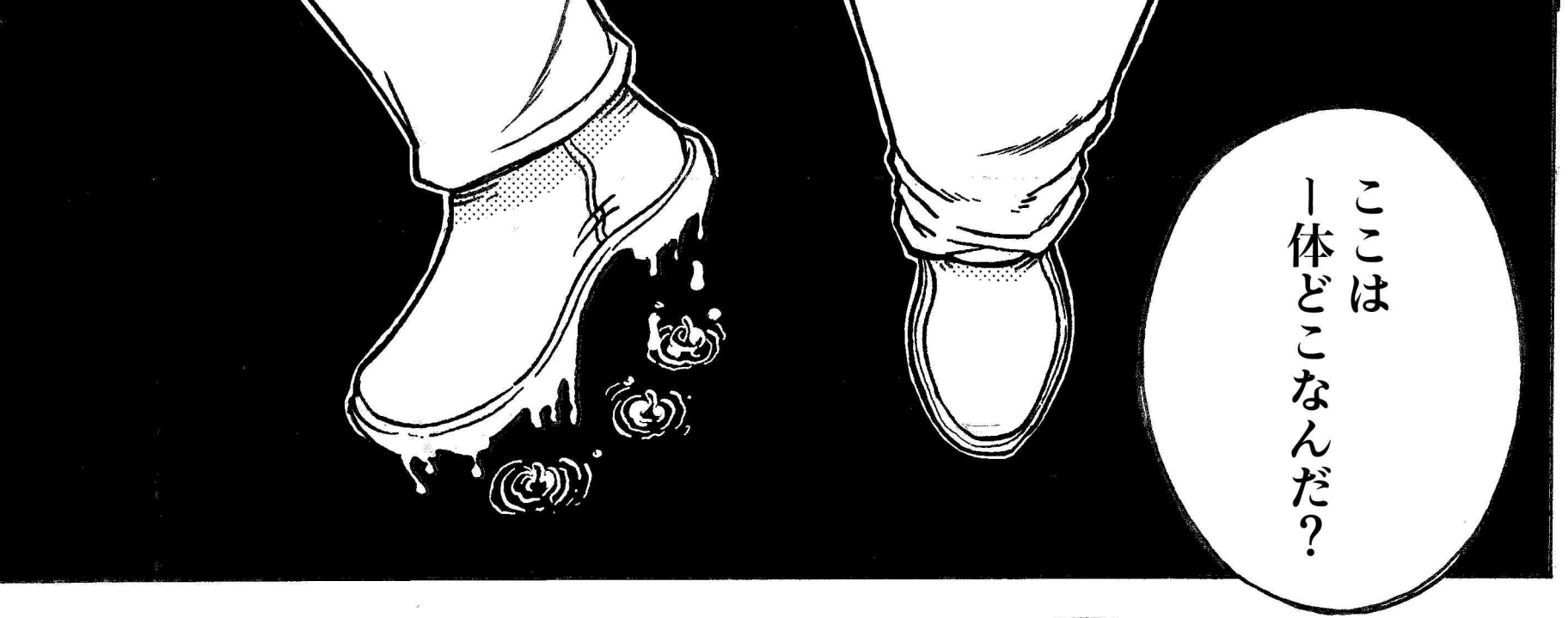




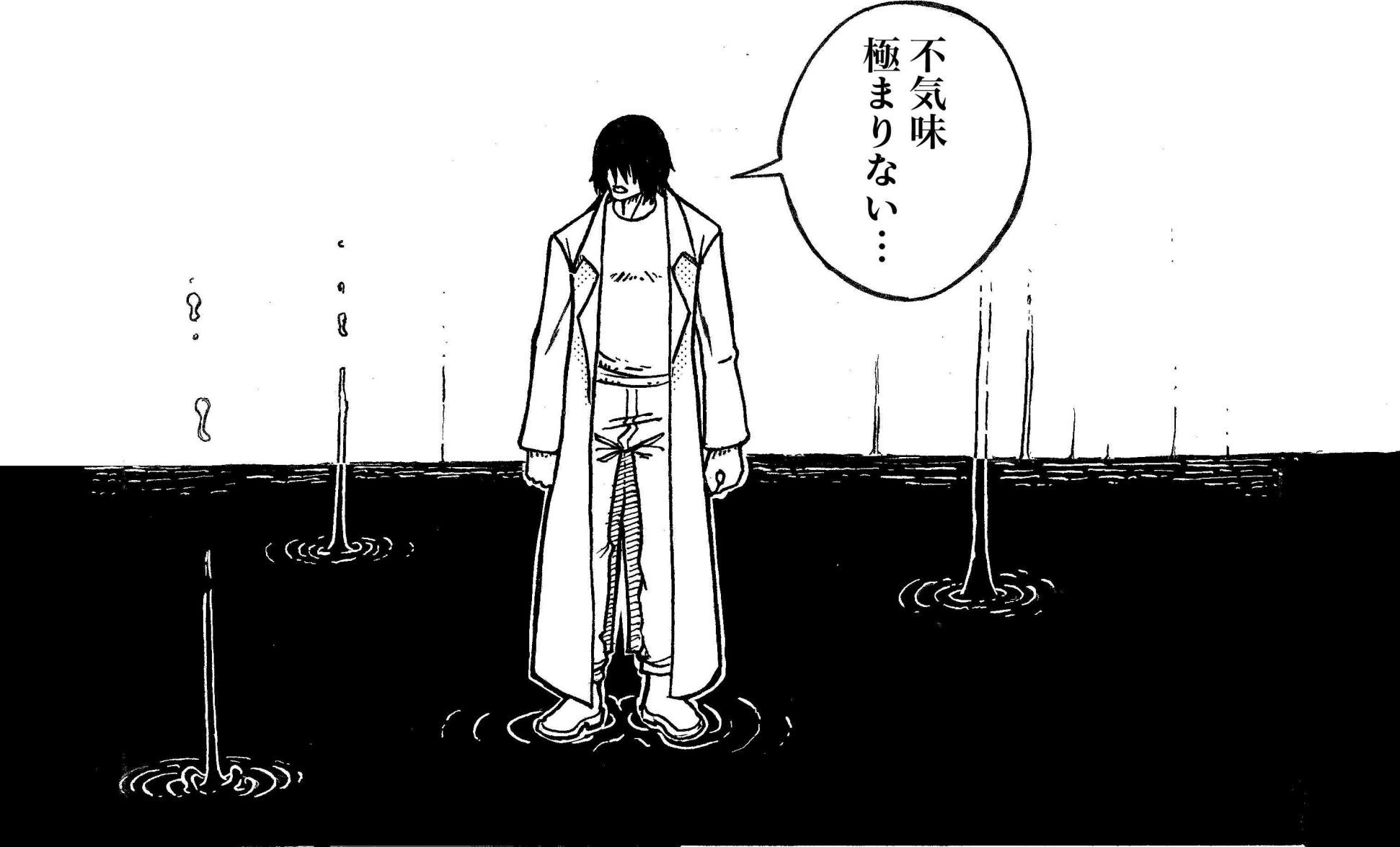
殴ってくれ。



あれ？



ここは  
一体どこなんだ？

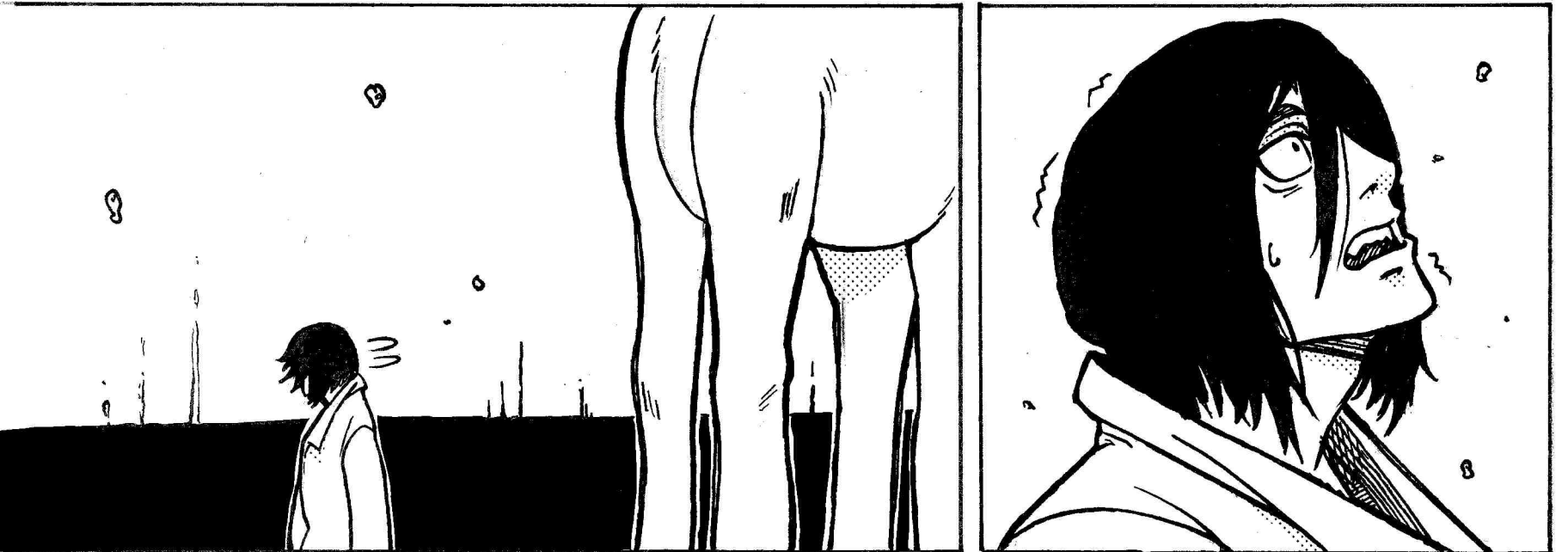
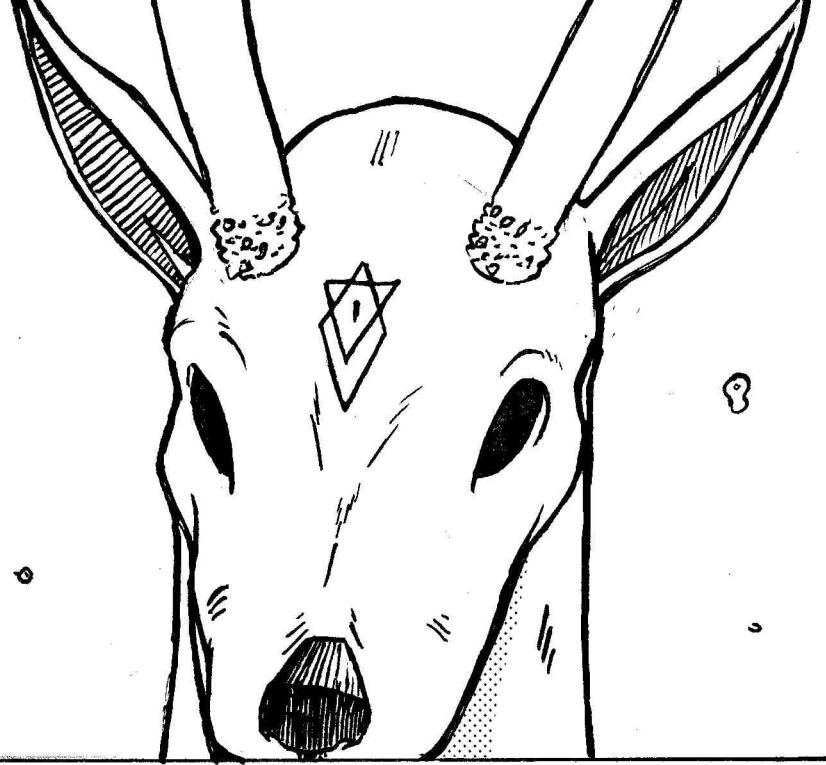


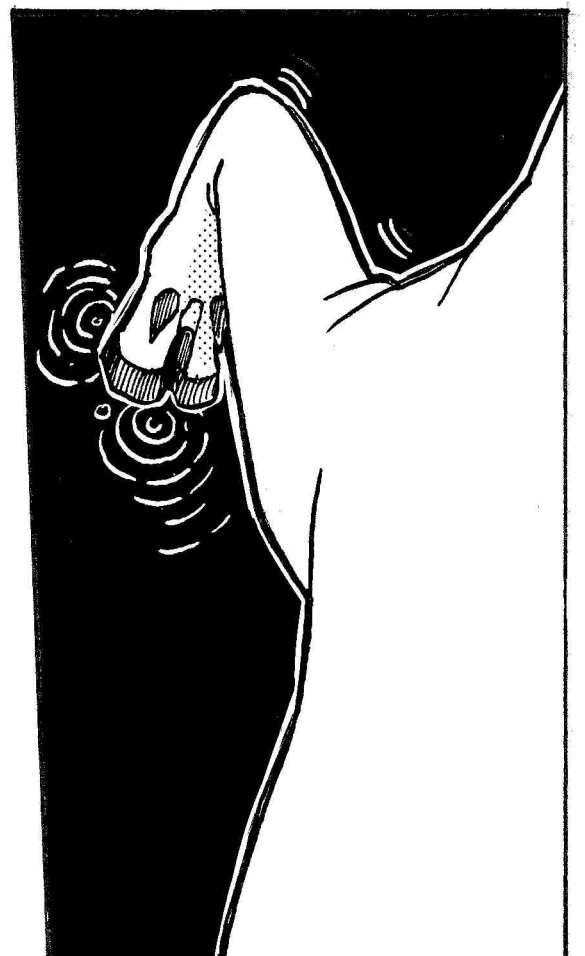
不気味  
極まりない…





聞こえた  
だろうか？







やっ  
て  
みろよー、  
人間。

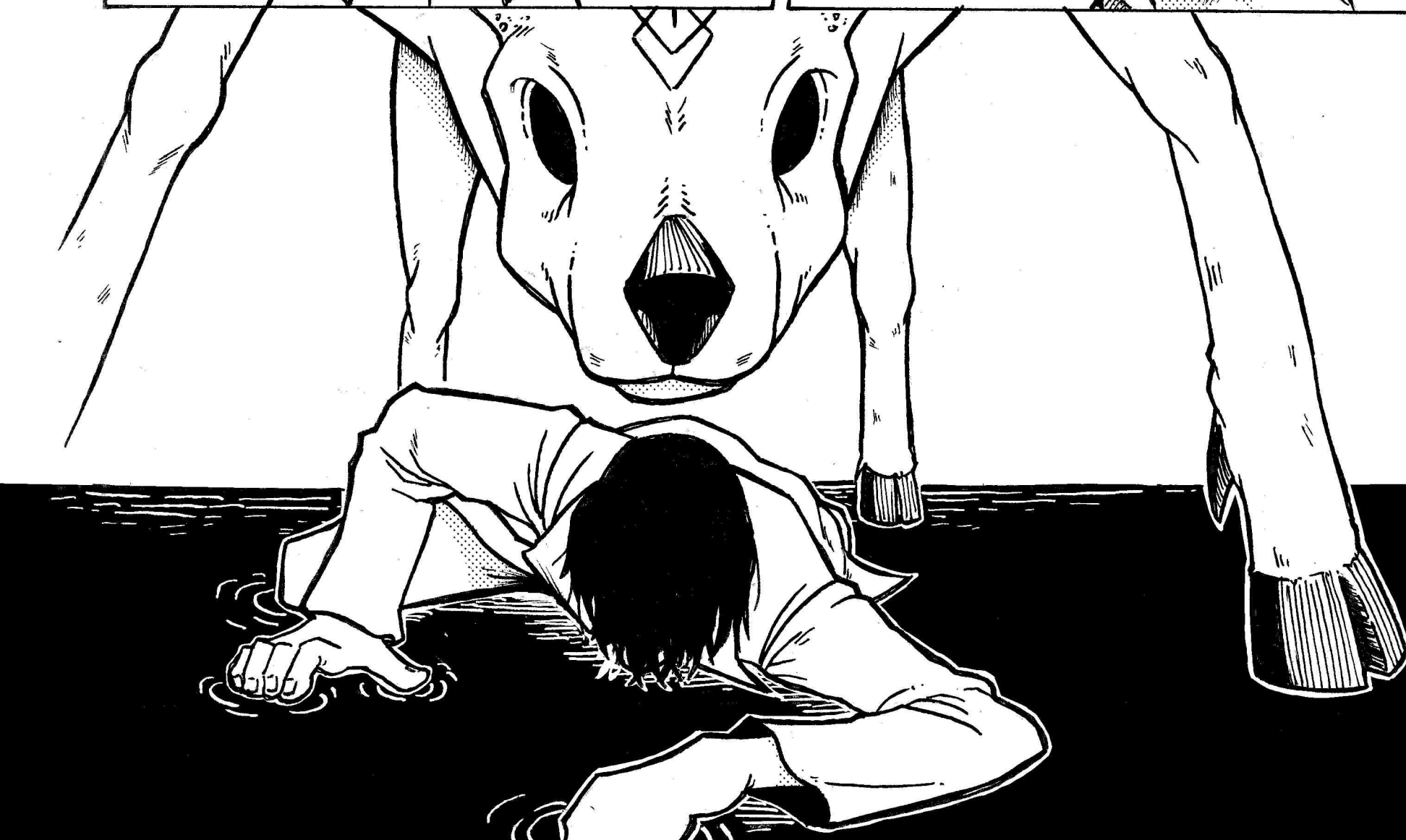


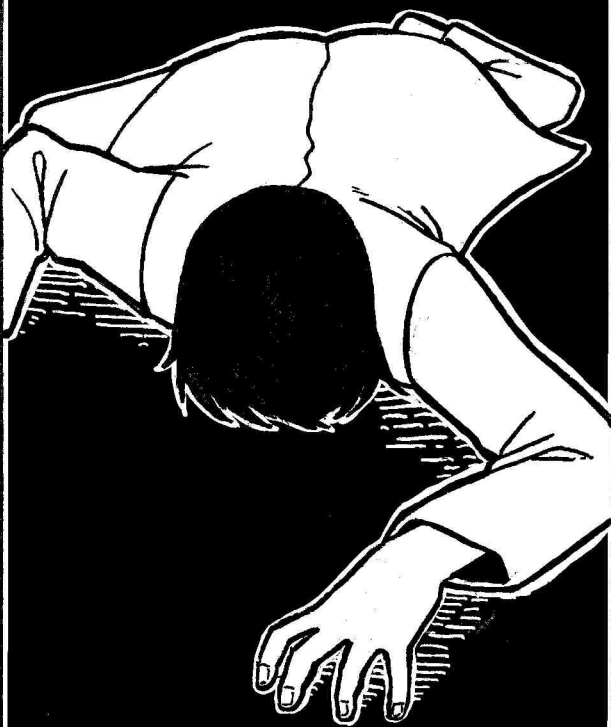
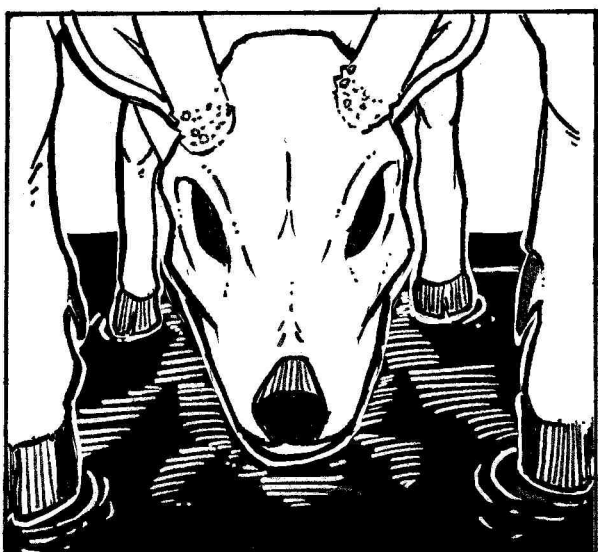
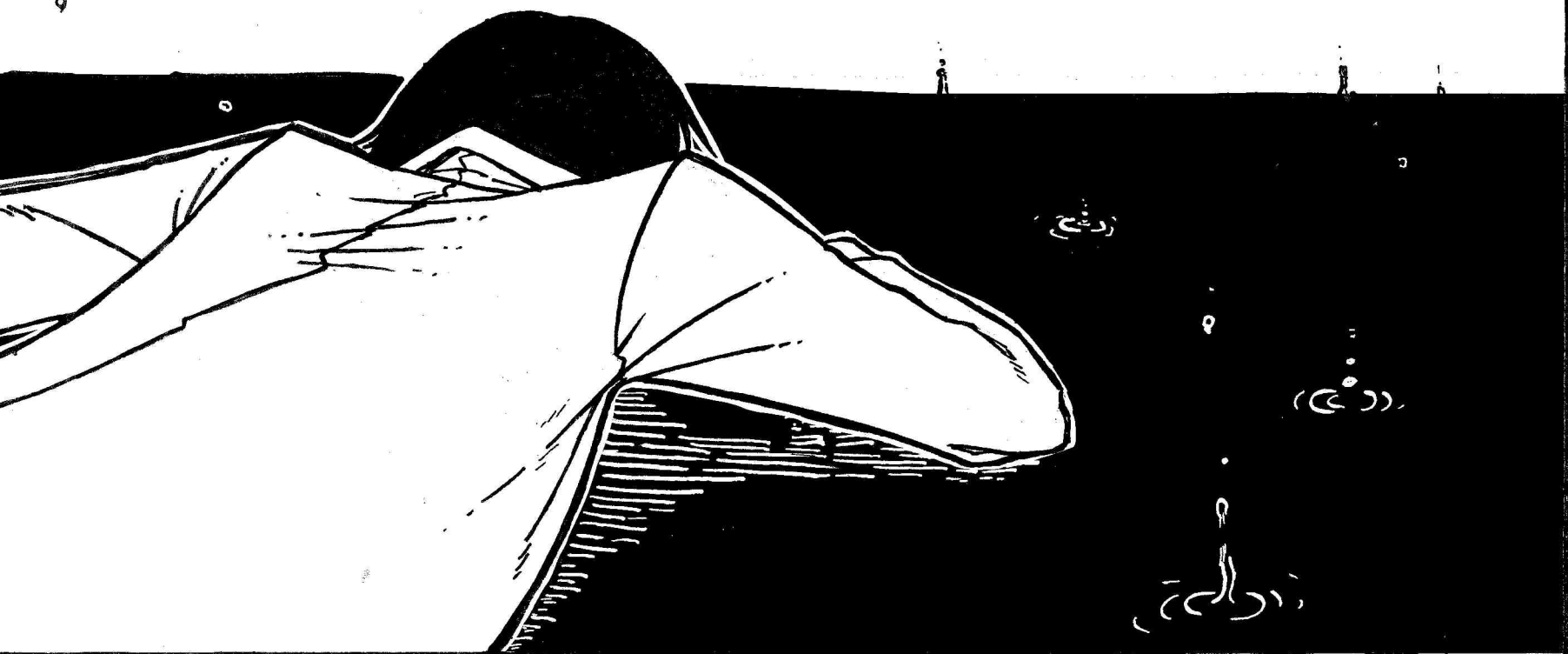


好きな  
だけ戦え…



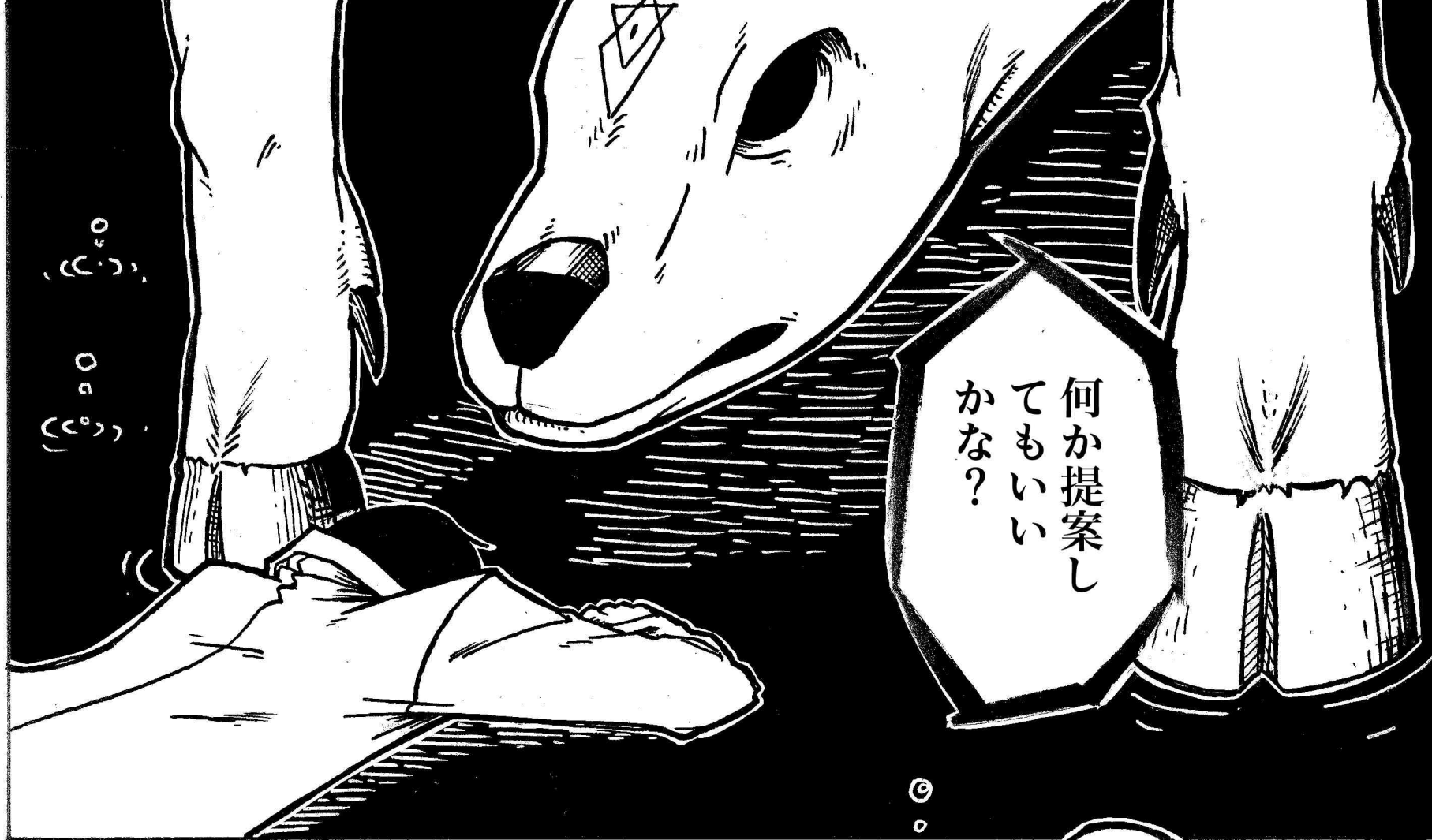
…でも、我がから  
逃げることは  
できな!



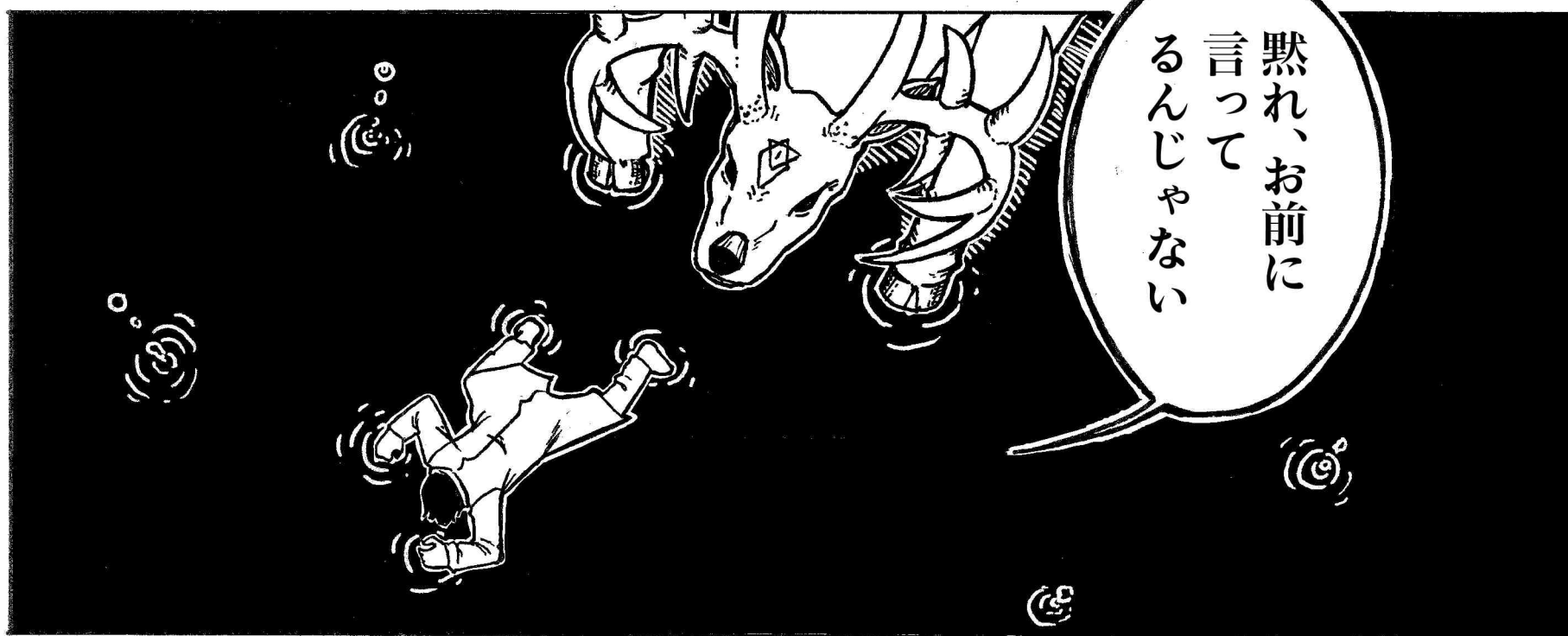


一体  
どうすれば  
いいんだ？

なぜ俺に  
こんなことが  
起こるのか？



何か提案し  
てもいい  
かな？



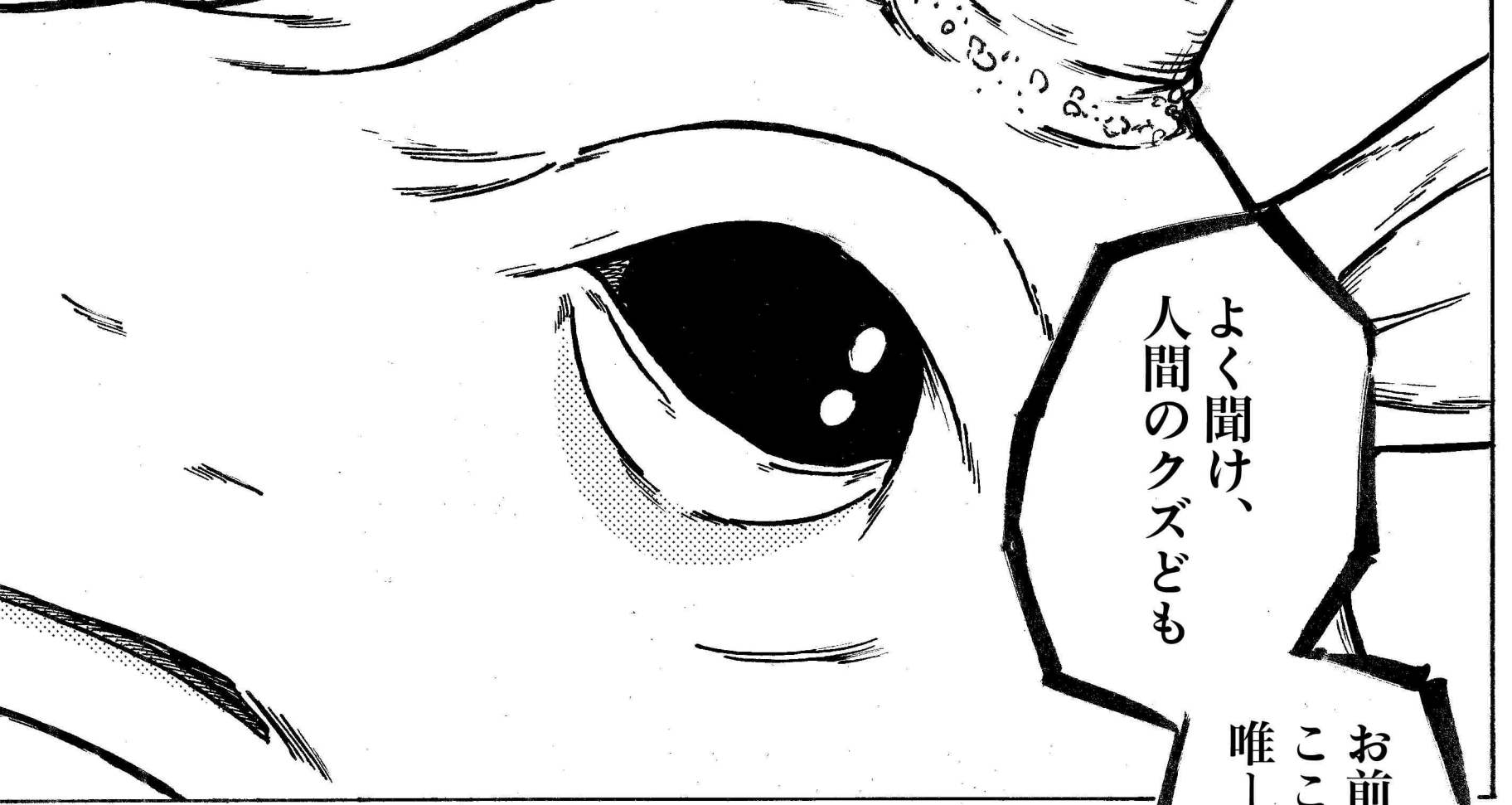
黙れ、お前に  
言っ  
てるんじゃない



君には  
ここで選ぶ  
特権はないんだ

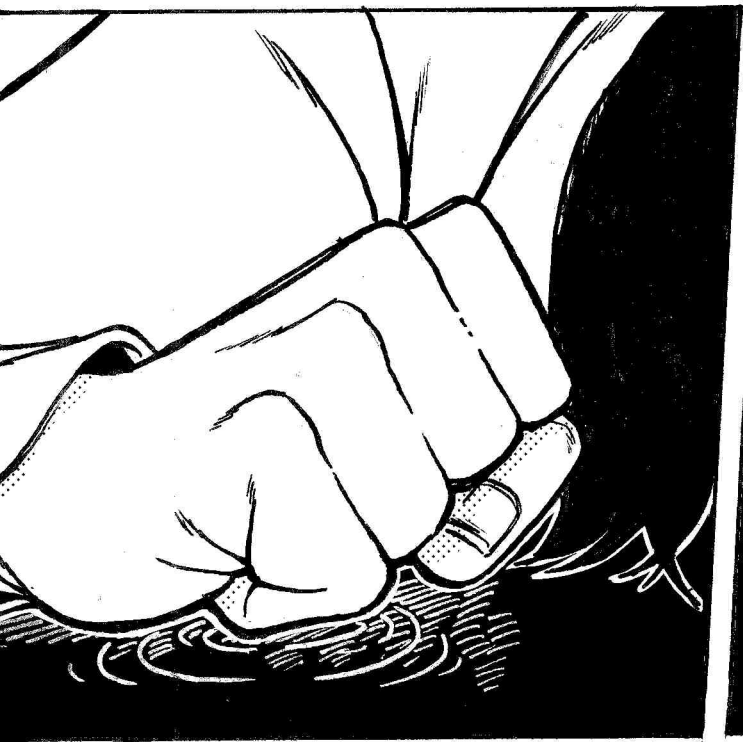


ほっといてくれ

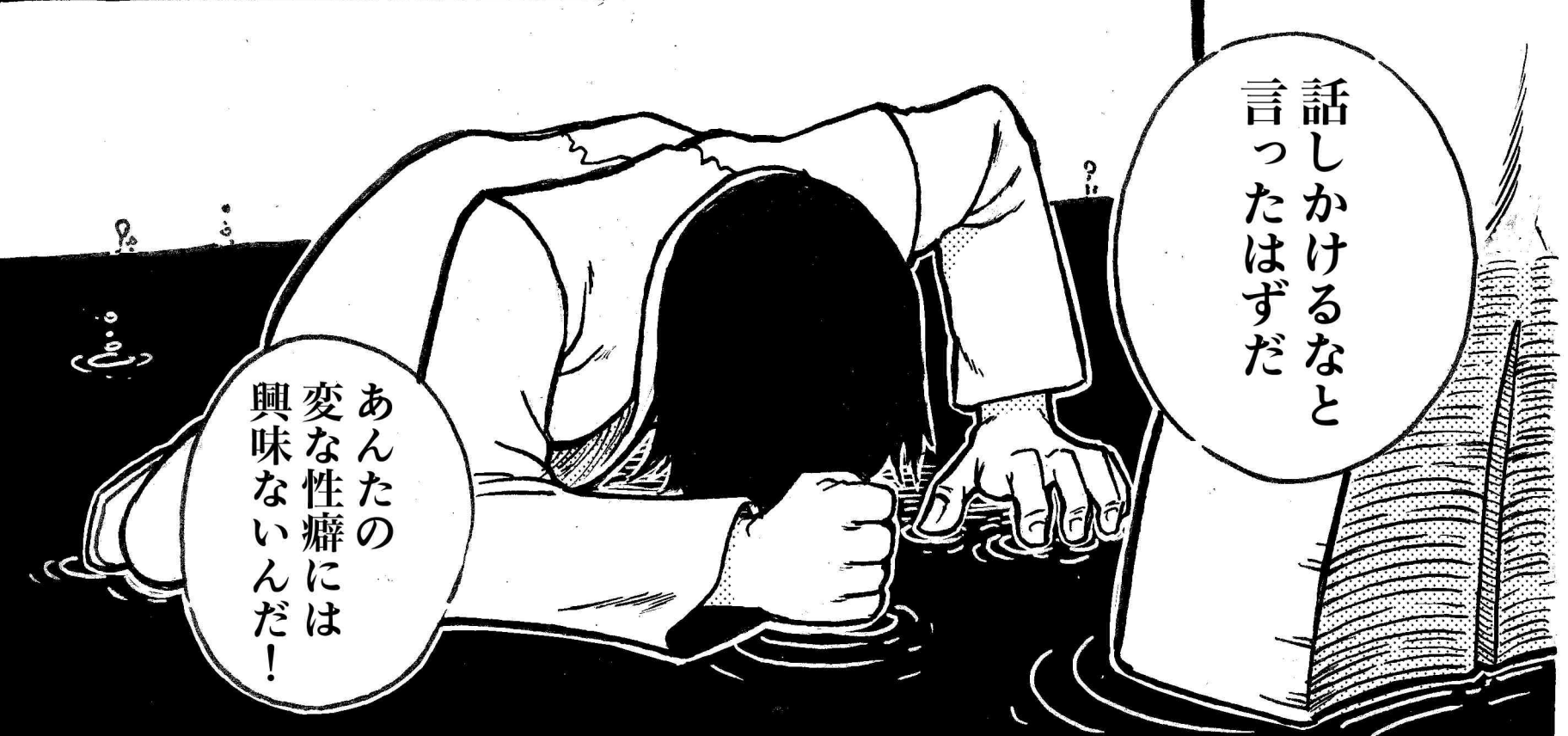


よく聞け、  
人間のクズども

お前が  
ここから出る  
唯一の方法は…



俺を  
殴ることだ！



話しかけるなど  
言っただはずだ

あんたの  
変な性癖には  
興味ないんだ！



モンスターに  
指図されたり、

クレイジーな  
バカに命令されたり  
したくない！





ここから  
出る方法は  
自分で見つける…



俺は操り人形  
ではない！  
さあ、失せろ！



そして、一度と  
指図しないでくれ！



我がは  
人間が理解  
できない：

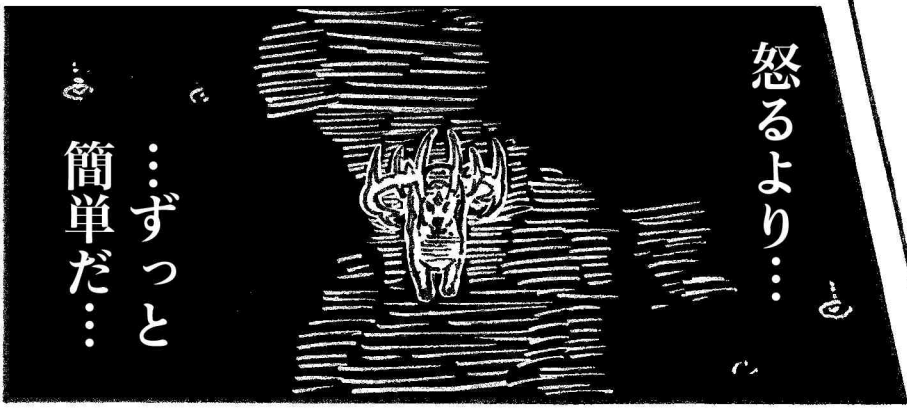
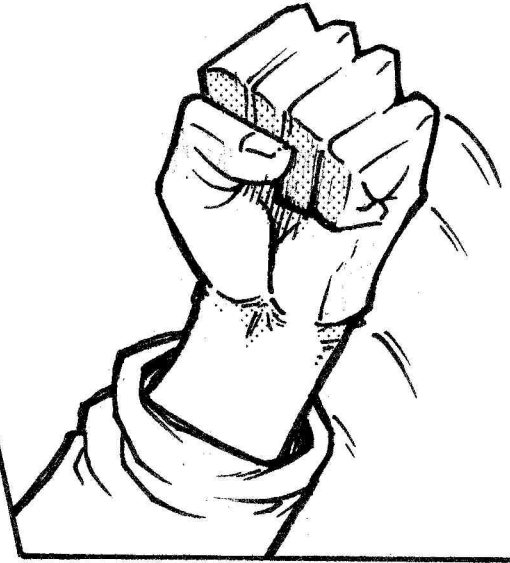
昆虫のように  
這いずり回り  
恐怖のあまり  
うずくまる：



あんな  
顔をして…



どうか  
恐怖を感じ  
させてほしい……



怒るより……

……ずっと  
簡単だ……



素晴らしきかな！  
怒れ！我がの  
ために精  
一杯怒ってくれ！



完璧だ！  
さあ、この哀れな  
生き物の言い訳、  
思い切り我がを  
殴りなさい！



もうその  
体をよこせ！



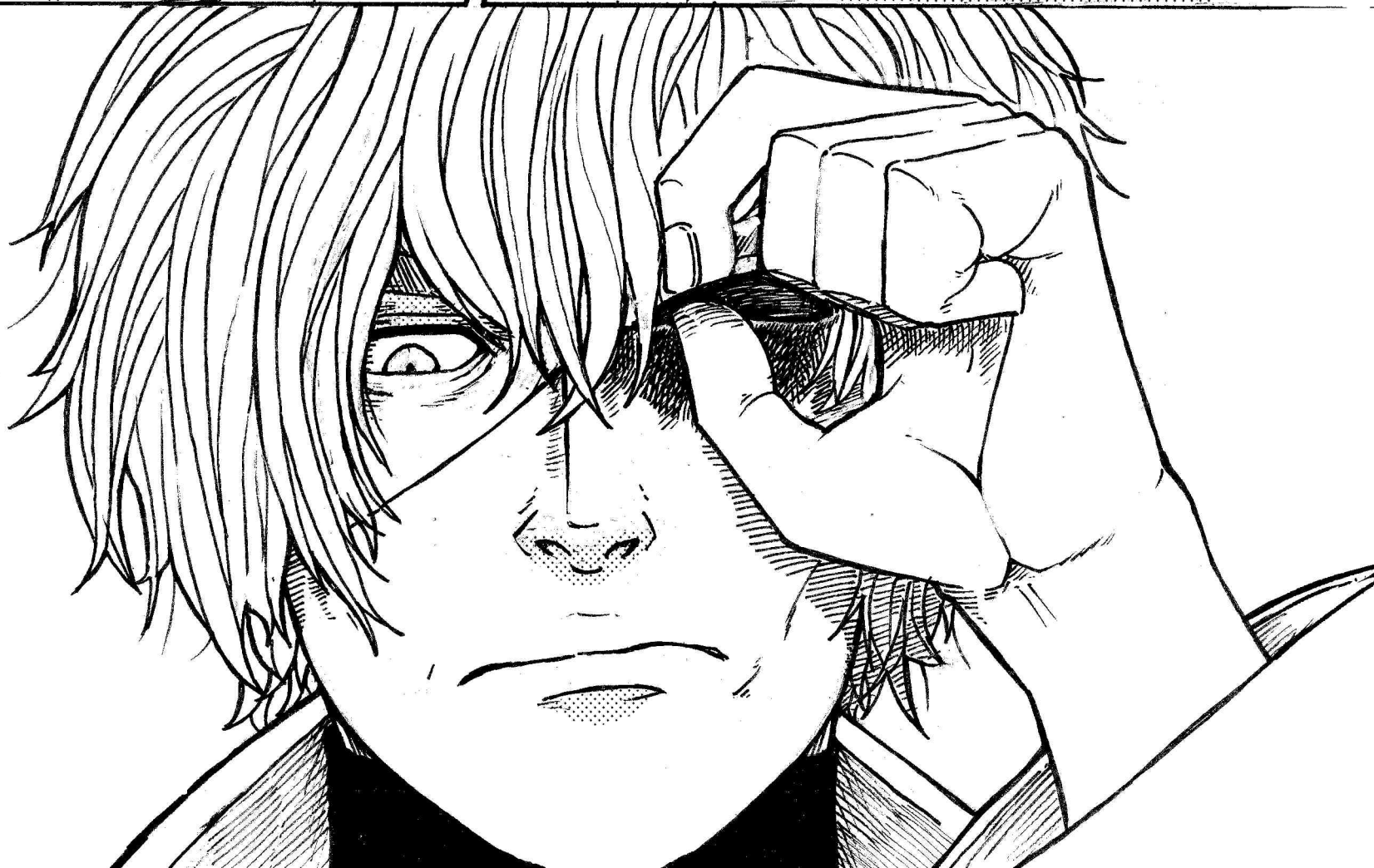
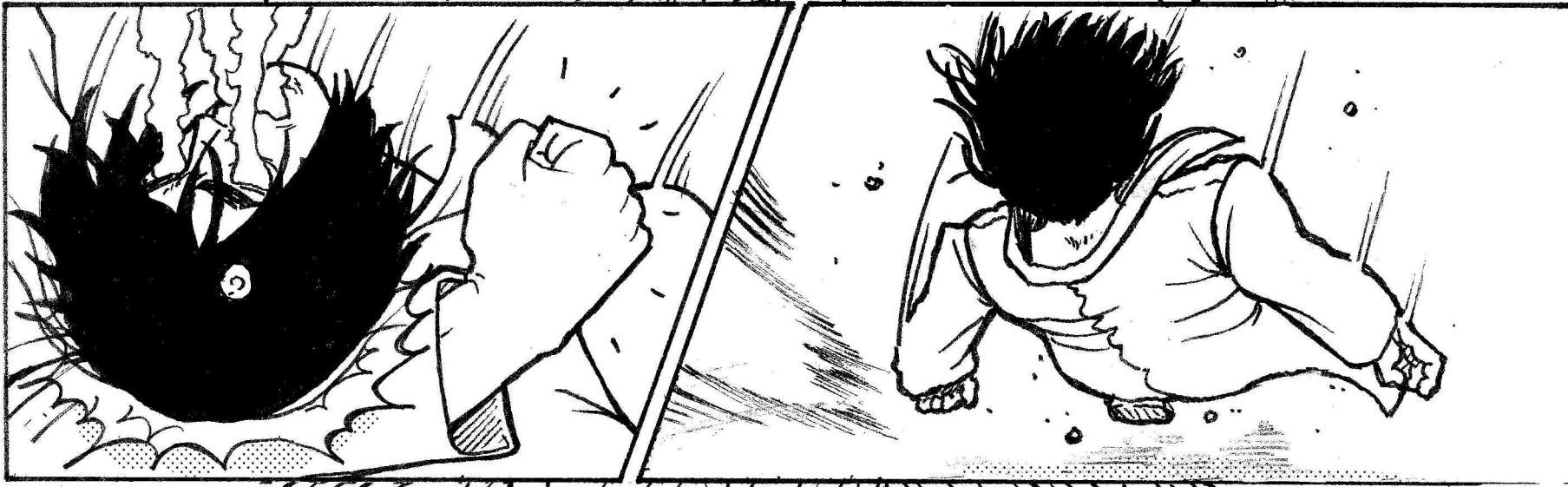
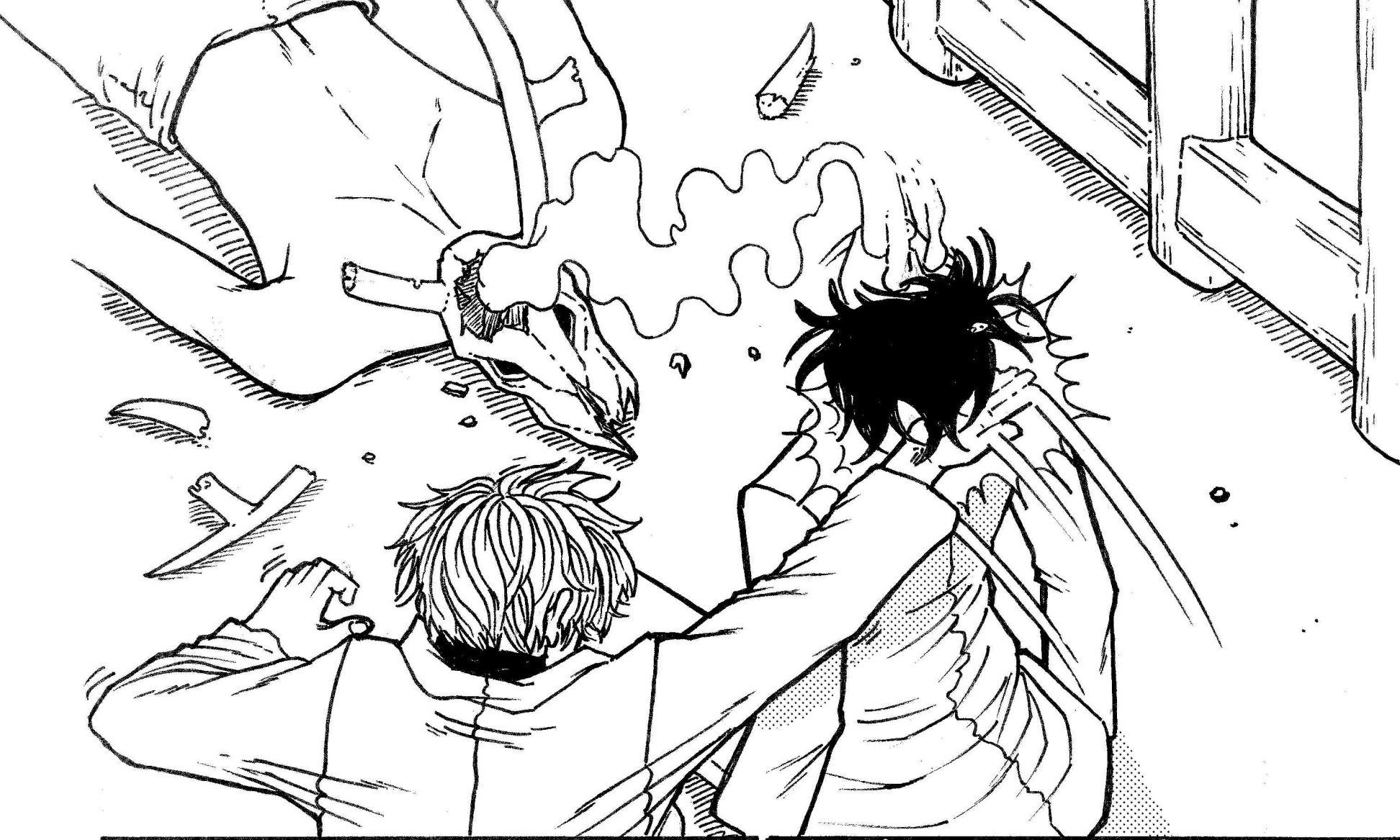


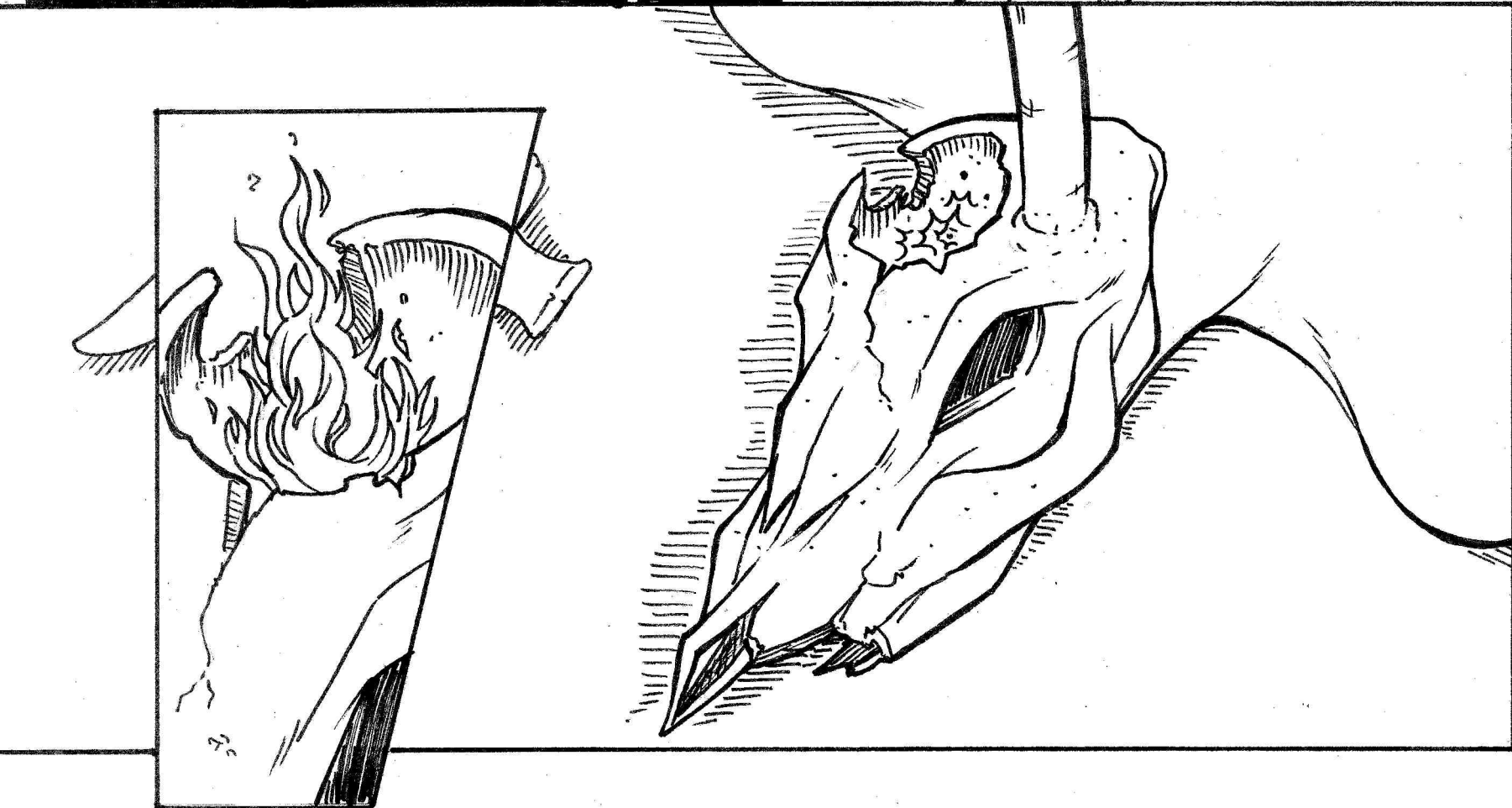
ハハハ!  
やっぱりね!

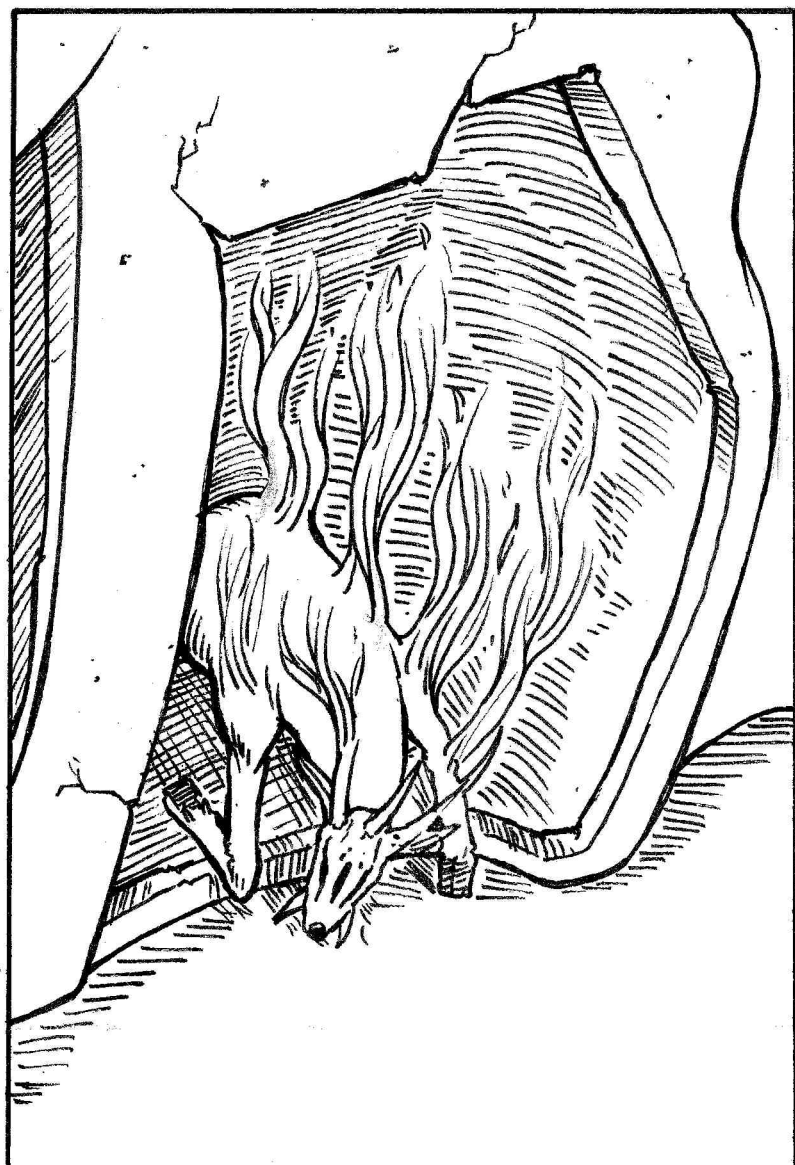
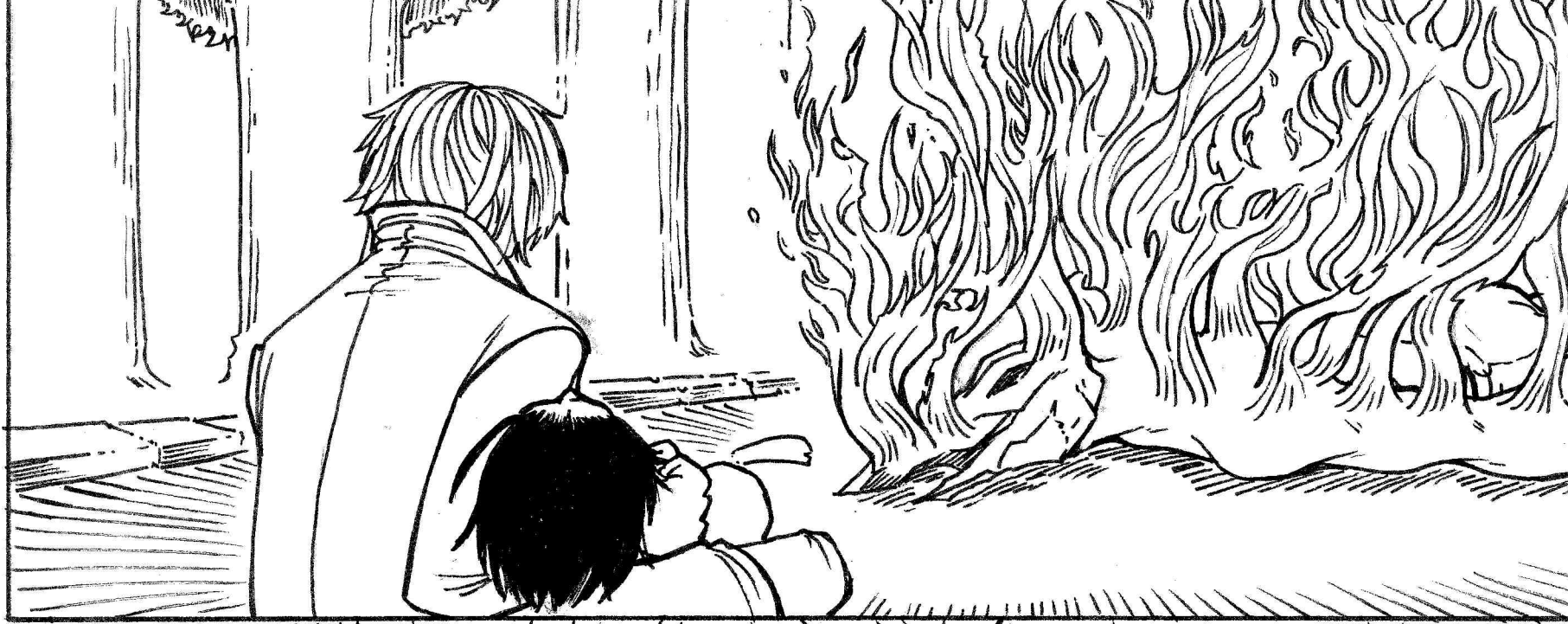


よくやった、  
あとは俺に  
任せて。















でも、あなたに  
感謝せずには  
いられない…



ジジは  
怒りの問題を  
抱えている…



彼は周りの人を  
傷つけること  
を恐れて、怒りを  
解放すること  
を恐れている…

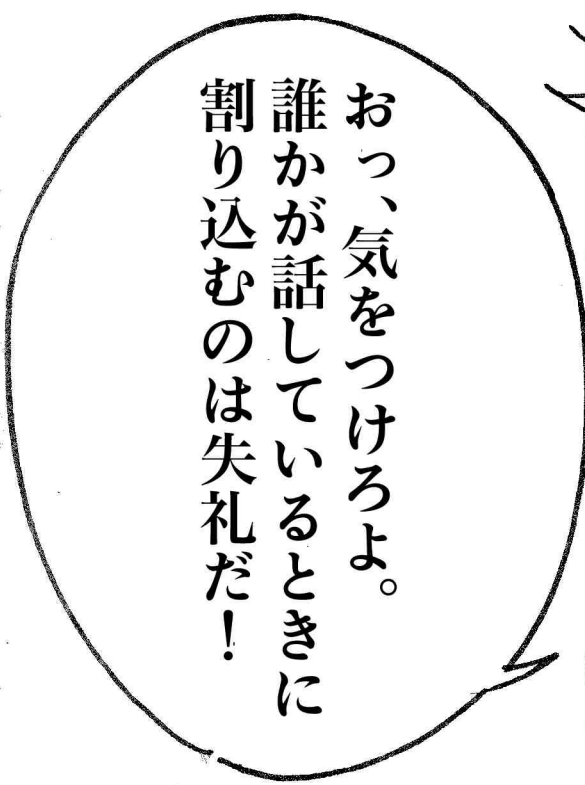


だから彼は  
怒りを抑えるのに  
必死なんだ。でもね…  
彼はとても怒りやすく、  
それを抑えるのに苦労する

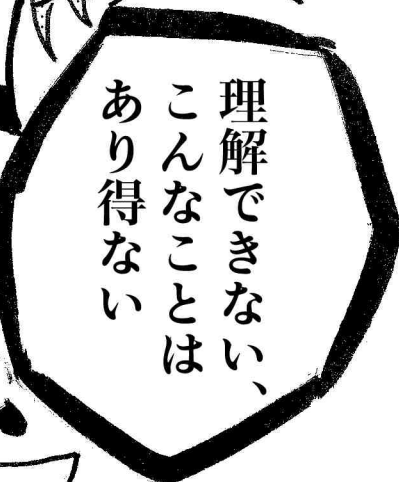


なぜ  
悪魔の目を  
している  
のか？

お前は  
人間だろう



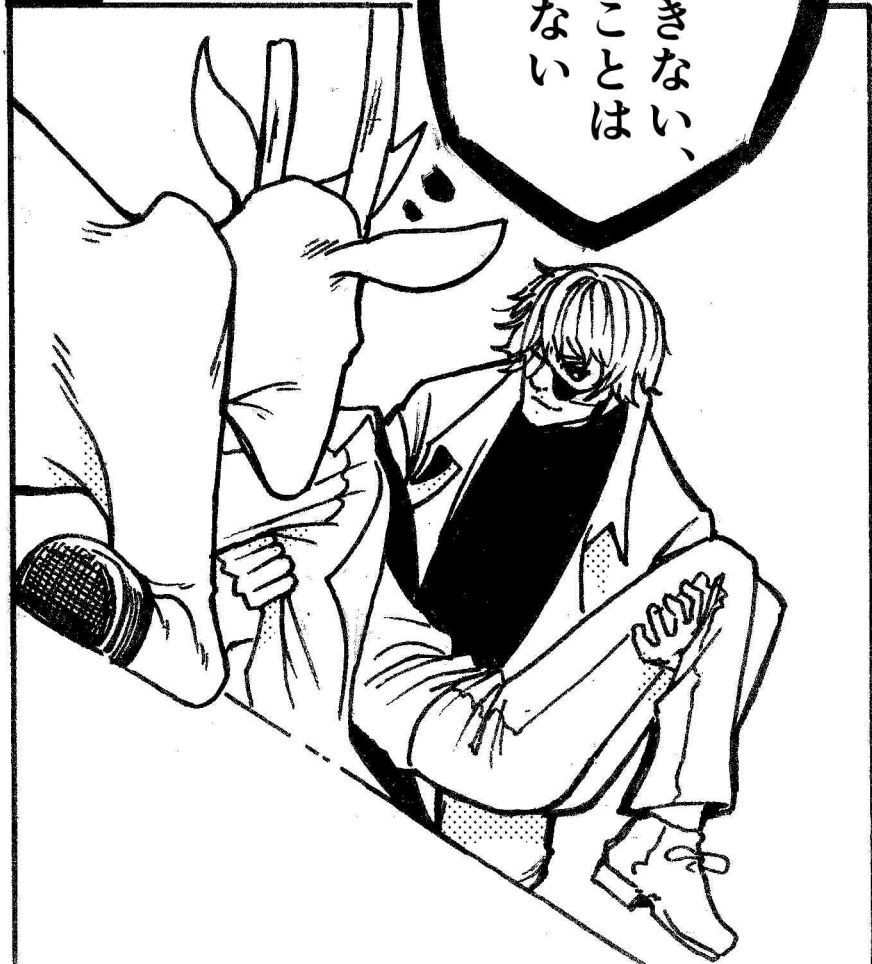
おっ、気をつけろよ。  
誰かが話しているときに  
割り込むのは失礼だ！



理解できない、  
こんなことは  
あり得ない



だから  
さっき言ったように…  
彼は怒りを隠すために  
恐怖に身を包んでいる。





まあ：  
彼を強くしてくれて  
ありがとう。





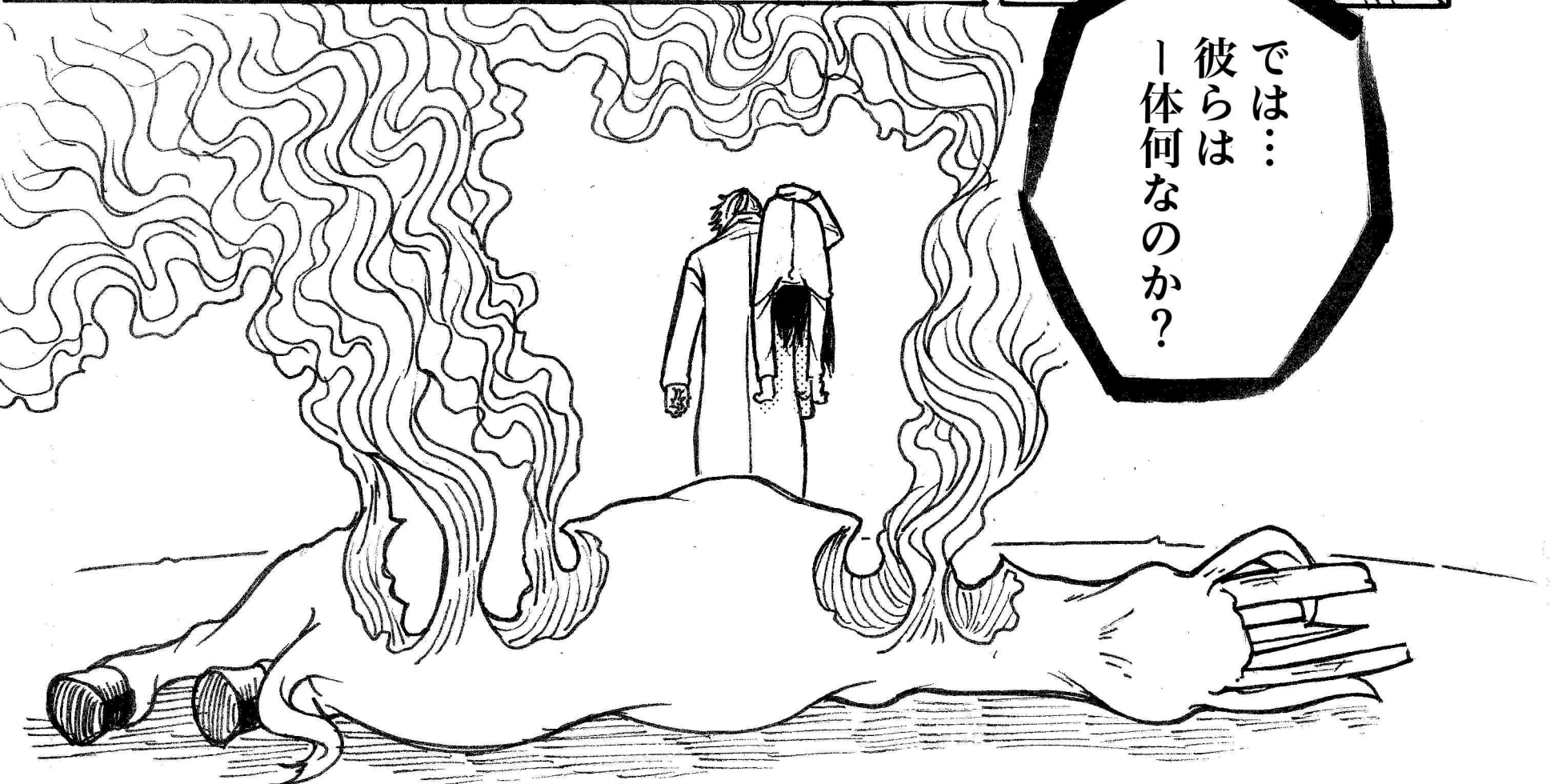
我がは  
その男をまったく  
感じ取ることが  
できなかった。  
悪魔の目のせい？



どれも  
意味がわからない。  
普通の人間で  
あるはずがない



では：  
彼らは  
一体何なのか？





なぜあの人は  
我がに感謝  
したのだろうか？



彼は悪魔が  
何であるかを  
理解していない  
のか？

終わりに

THE  
END